

第2章 活動組織アンケート

全国の活動組織を対象としたアンケートの集計・分析を行った。単数回答の設問には（単数回答）、複数回答の設問には（複数回答）、数量回答の設問には（数量回答）、自由記述の設問には（自由記述）と記載している。

1 活動組織の概況

1.1 活動組織の形態・規模

森林・山村多面的機能発揮対策交付金の支給を受けた活動組織の形態（**図表 2-1**）は、任意団体（79.3%）が最も多く、次いでNPO法人（11.7%）、その他法人（5.4%）となっている。少数であるが、会社法人、財団法人、社団法人の活動組織もみられる。

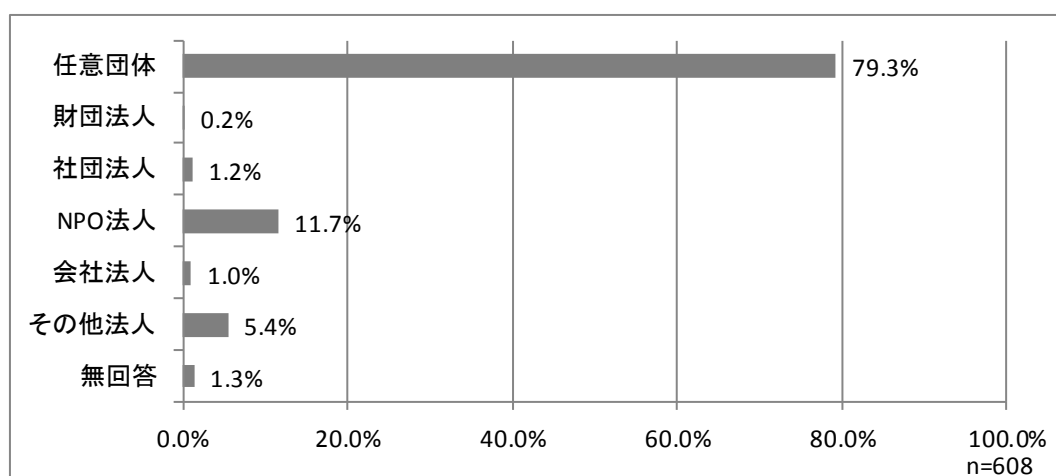
団体の母体となった組織（**図表 2-2**）は、地元有志の集まり（49.4%）、地元の自治会組織（13.3%）などの地域に根差したものが多いが、森林組合（9.2%）、NPO法人・公益法人（7.1%）の割合も比較的高い。

団体の会員数（**図表 2-3**）は、1～19人（42.4%）が最も多いものの、100人以上とした団体も13.0%あり、小規模な団体が中心ながら会員数の多い団体も一定程度存在している。会員数の中央値は、22.5人である。

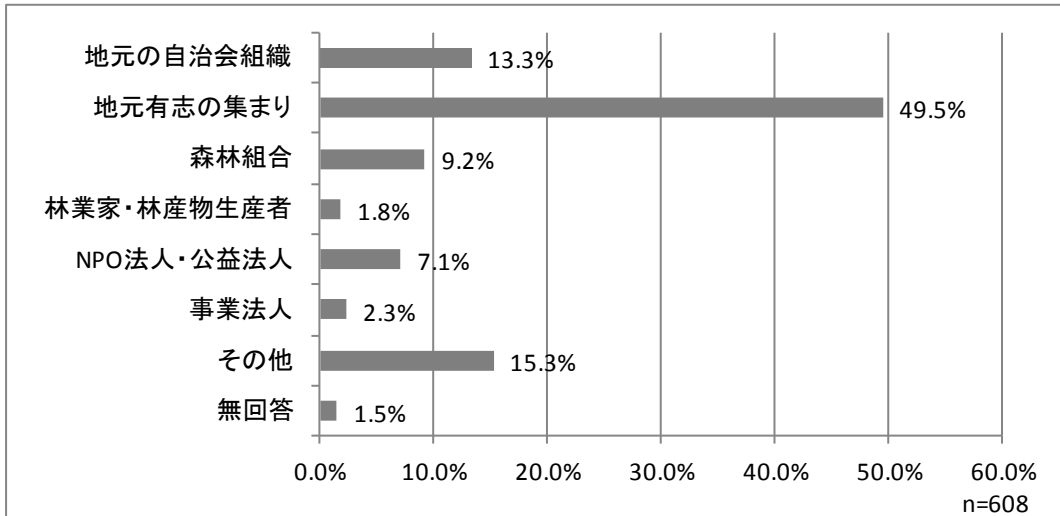
会員の職種・属性（**図表 2-4**）もさまざまであるが、上位3つは、退職者（56.9%）、会社員（47.0%）、森林所有者（45.1%）となっている。

このように、各活動組織の形態・規模はさまざまで、会員の職種・属性も幅広い。地域の里山林が抱える課題を解決するために、多様な実施主体が本交付金を活用し、保全活動に取り組んでいる様子がうかがえる。

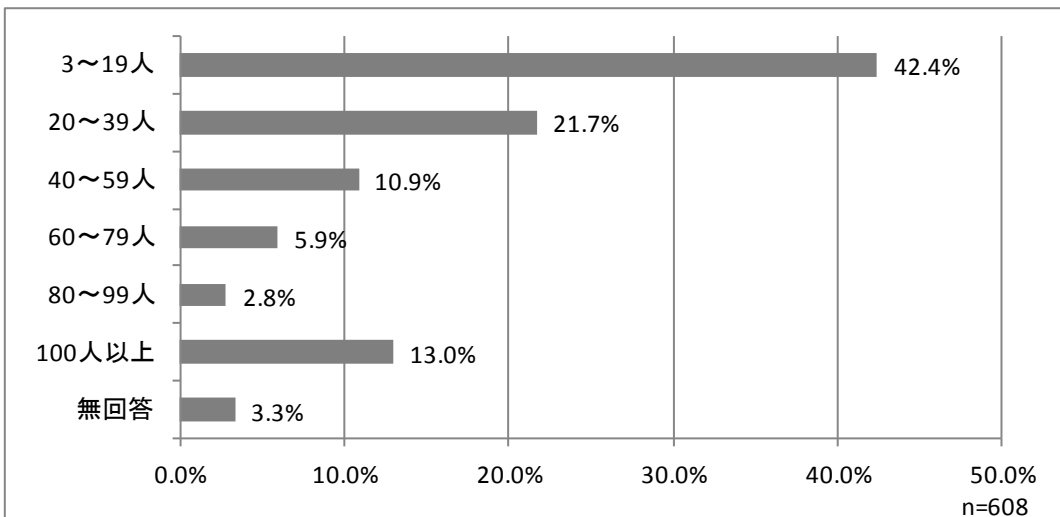
図表 2-1 活動組織の形態（単数回答）



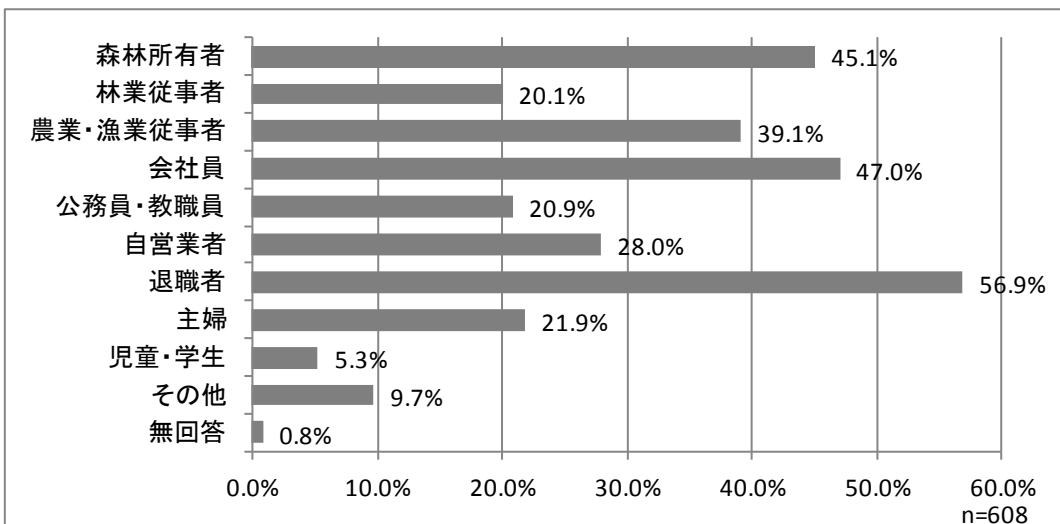
図表 2-2 活動組織の母体となった組織（単数回答）



図表 2-3 団体の会員数（数量回答）



図表 2-4 会員の職種・属性のうち多いもの（複数回答）



1.2 活動組織の運営状況

(1) 資金調達と外部との交流及び情報発信

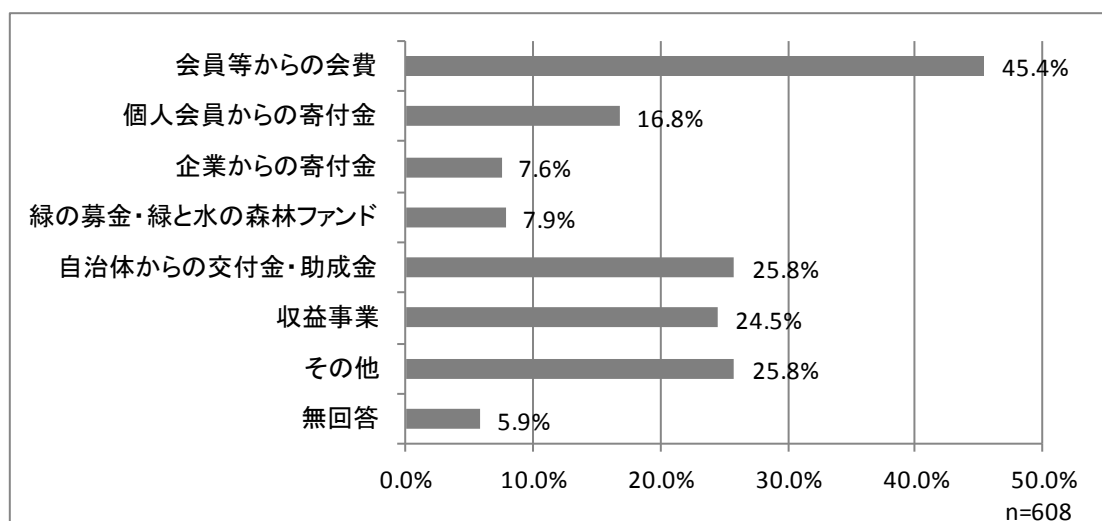
本交付金以外の資金調達的手段（図表 2-5）は、会員等からの会費（45.4%）が最も多く、自治体からの交付金・助成金（25.8%）、収益事業（24.5%）が続いた。その他（25.8%）では、母体組織からの資金提供や代表者個人からの借入れなどの回答もみられたが、本交付金以外の資金調達手段を持たないとする回答が目立った。

活動をとおした「森林づくり・地域活性化を行う他団体」や「外部住民」との交流機会の有無（図表 2-6）では、いずれも「なし」が「あり」を約 10%ポイント上回った。他団体との交流機会の内容は、イベントの共同実施、情報交換会・研修会の実施、活動への相互参加などが多くなっている。外部住民との交流機会の内容は、体験教室や植樹などのイベント実施、ボランティア参加の受け入れが多い。

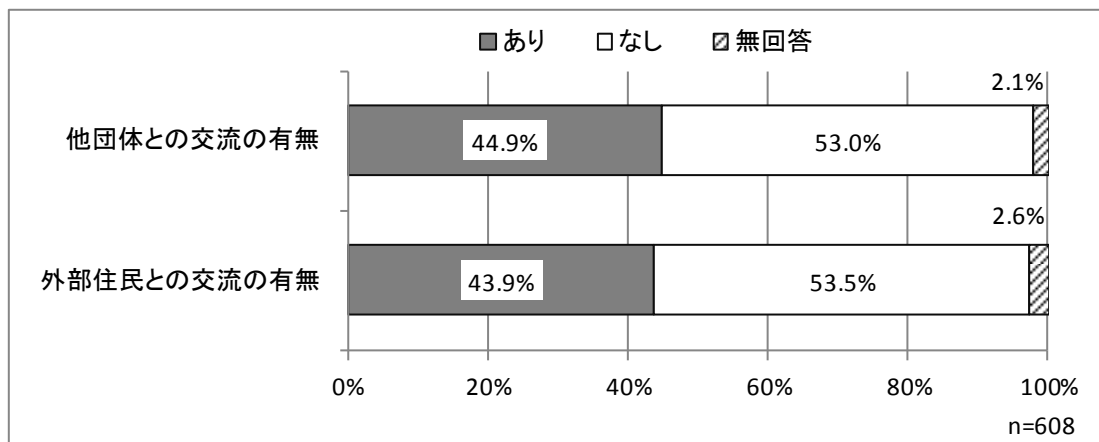
団体への加入や活動への参加を呼び掛ける方法（図表 2-7）は、会員による口コミ（54.1%）が最も多い。団体のホームページ（以下、「HP」という。）（21.7%）や、自治体の回覧板（15.0%）、行政の広報誌（14.0%）に加え、「その他」では、チラシ・パンフレットのほか、新聞広告、SNS などの回答がみられ、各団体の情報発信はさまざまな方法で行われている。一方で、特に呼びかけはしていないとした団体も 26.3%と多くなった。

各活動組織が取組の維持・向上を図るうえでは、活動資金を確保するとともに、外部との交流や情報発信によって活動への参加者、賛同者を増やしていくことが重要であるが、団体による温度差がみられる結果となった。

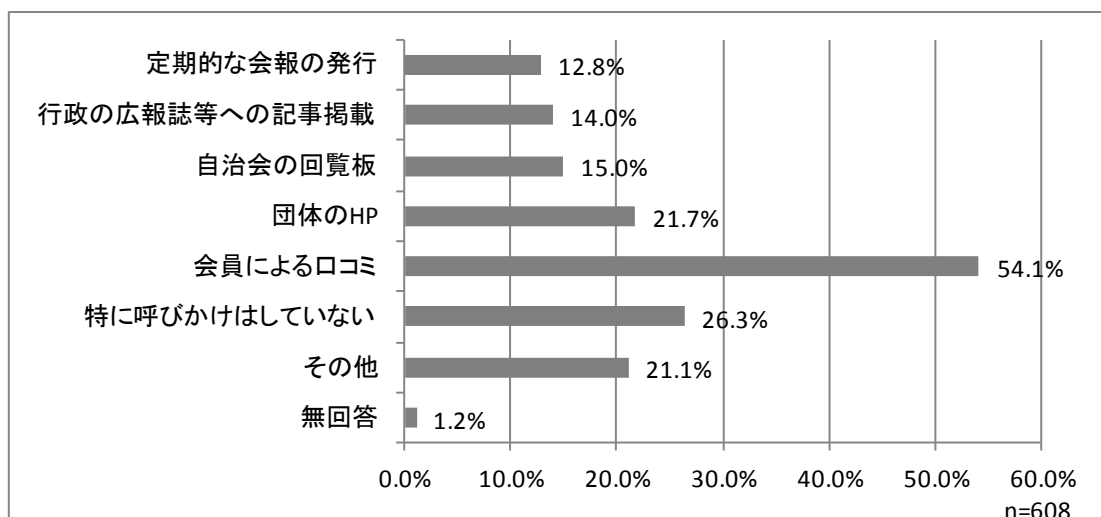
図表 2-5 交付金以外の資金調達手段（複数回答）



図表 2-6 森林づくり・地域活性化を行う他団体及び外部住民との交流の有無（単数回答）



図表 2-7 団体への加入・活動への参加を呼びかける方法（複数回答）



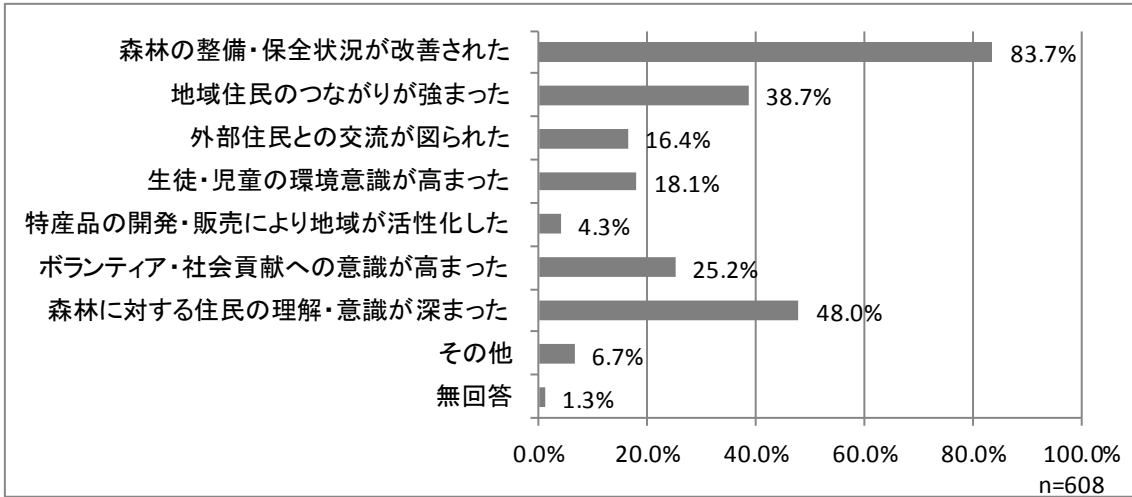
(2) 活動の成果と課題

団体の活動全般（本交付金を活用した事業以外も含む全ての活動）について得られた成果（図表 2-8）としては、「森林の整備・保全状況が改善された」が 83.7%と最も多く、「森林に対する住民の理解・意識が深まった」（48.0%）、「地域住民のつながりが強まった」（38.7%）が続いた。一方で、「特産品の開発・販売により地域が活性化した」と回答した団体は 4.8%と少数となった。団体の活動により、里山林の整備や地域コミュニティの活力・関心の向上といった成果が得られているが、森林資源の活用には課題が残っている状況がうかがえる。

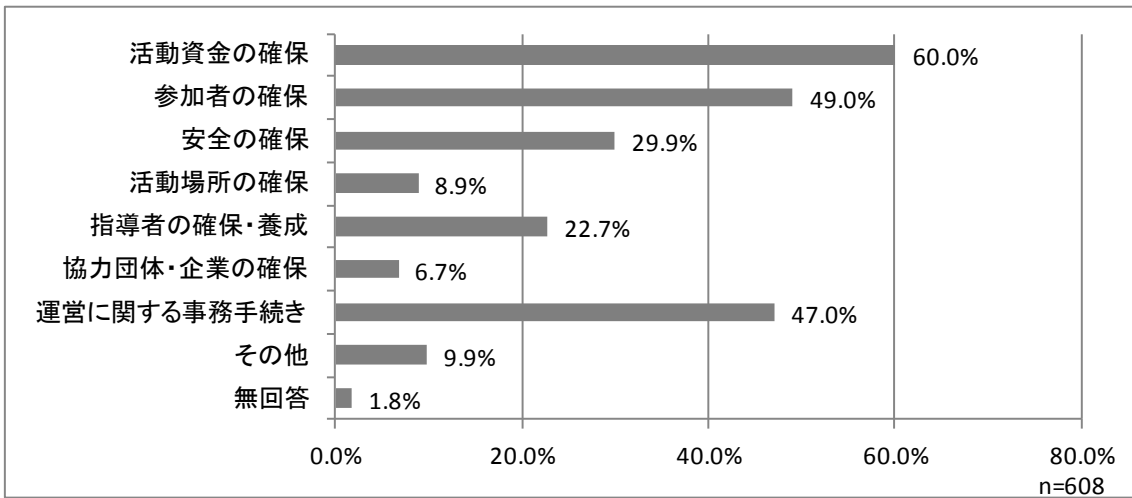
活動の課題となっている点（図表 2-9）は、活動資金の確保（60.0%）が最も多く、参加者の確保（49.0%）、運営に関する事務手続き（47.0%）とする回答が続いた。指導者の確保養成（22.7%）のほか、「その他」でも会員の高齢化や若手の育成を挙げた団体が

目立っており、資金の確保と担い手の確保・育成が活動組織の大きな課題となっている。

図表 2-8 団体の活動を通して得られた成果（複数回答）



図表 2-9 団体の活動で課題となっている点（複数回答）



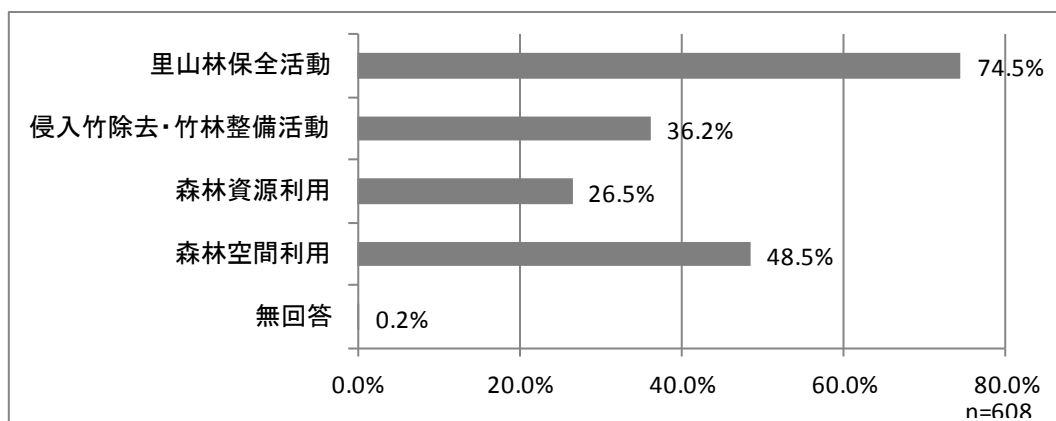
2 交付金を活用した取組の概況

2.1 交付金の支給を受けた活動タイプ

地域環境保全タイプのうち里山林保全活動（74.5%）が最も多く、7割を超えた。その他の活動タイプは、森林空間利用タイプ（48.5%）、地域環境保全タイプのうち侵入竹除去・竹林整備活動（36.2%）、森林資源利用タイプ（26.5%）の順に割合が高くなっている（図表 2-10）。

複数の活動タイプを組み合わせる活動している活動組織が多く、組み合わせ状況を図表 2-11 に示した。1 つの活動タイプのみで交付金の支給を受けた活動組織は 42.1%、2 つの活動タイプを組み合わせる活動組織は 35.9%、3 つの活動タイプを組み合わせる活動組織は 15.6%、4 つ全ての活動タイプを実施した活動組織は 6.3%となっており、全体の 6 割近い活動組織が複数の活動タイプを組み合わせる活動している。

図表 2-10 交付金の支給を受けた活動タイプ（複数回答）



図表 2-11 活動タイプの組み合わせ状況

	里山林保全活動 (地域環境保全タイプ)	侵入竹除去 ・竹林整備活動 (地域環境保全タイプ)	森林資源利用タイプ	森林空間利用タイプ	団体数	割合	(参考) 組合数別
1	○				159	26.2%	42.1%
2		○			45	7.4%	
3			○		23	3.8%	
4				○	29	4.8%	
5	○	○			52	8.6%	35.9%
6	○		○		18	3.0%	
7	○			○	95	15.6%	
8		○	○		5	0.8%	
9		○		○	24	3.9%	
10			○	○	24	3.9%	
11	○	○	○		10	1.6%	15.6%
12	○	○		○	42	6.9%	
13	○		○	○	39	6.4%	
14		○	○	○	4	0.7%	
15	○	○	○	○	38	6.3%	6.3%
無回答					1	0.2%	0.2%
合計					608	100.0%	100.0%

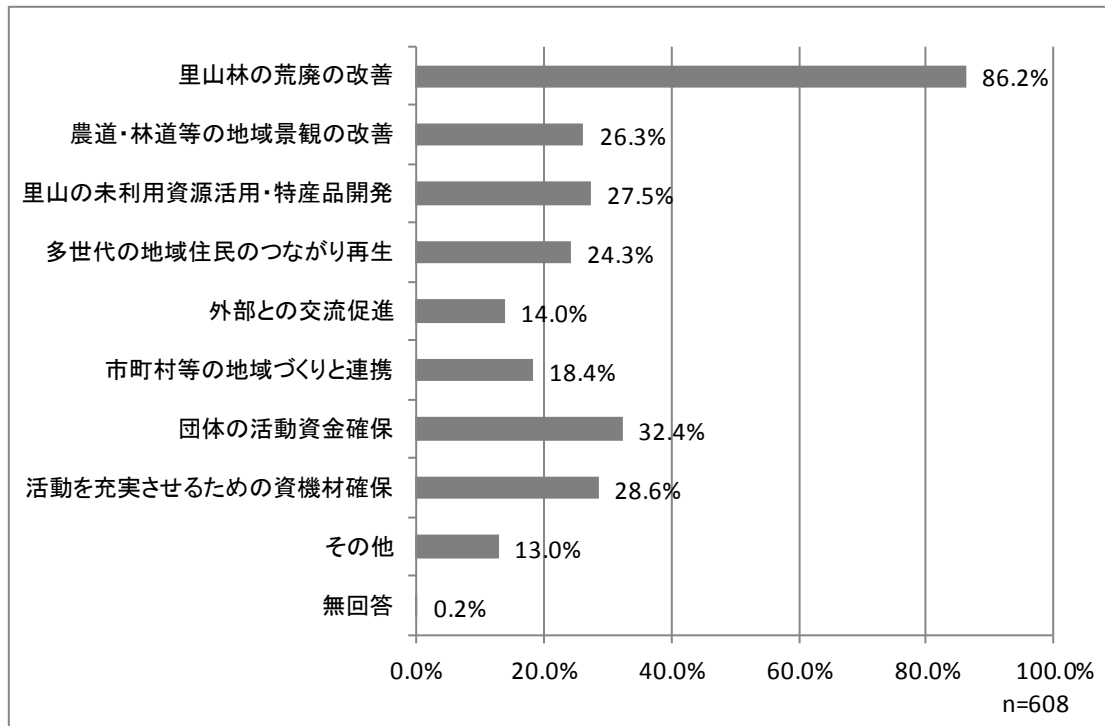
2.2 交付金活用の目的と情報入手先

本交付金を活用した目的(図表 2-12)は、里山林の荒廃の改善(86.2%)が最も多く、8割を超える回答を集めた。多数の活動組織が里山林の保全を主な目的として交付金を活用していることがうかがえる結果となった。

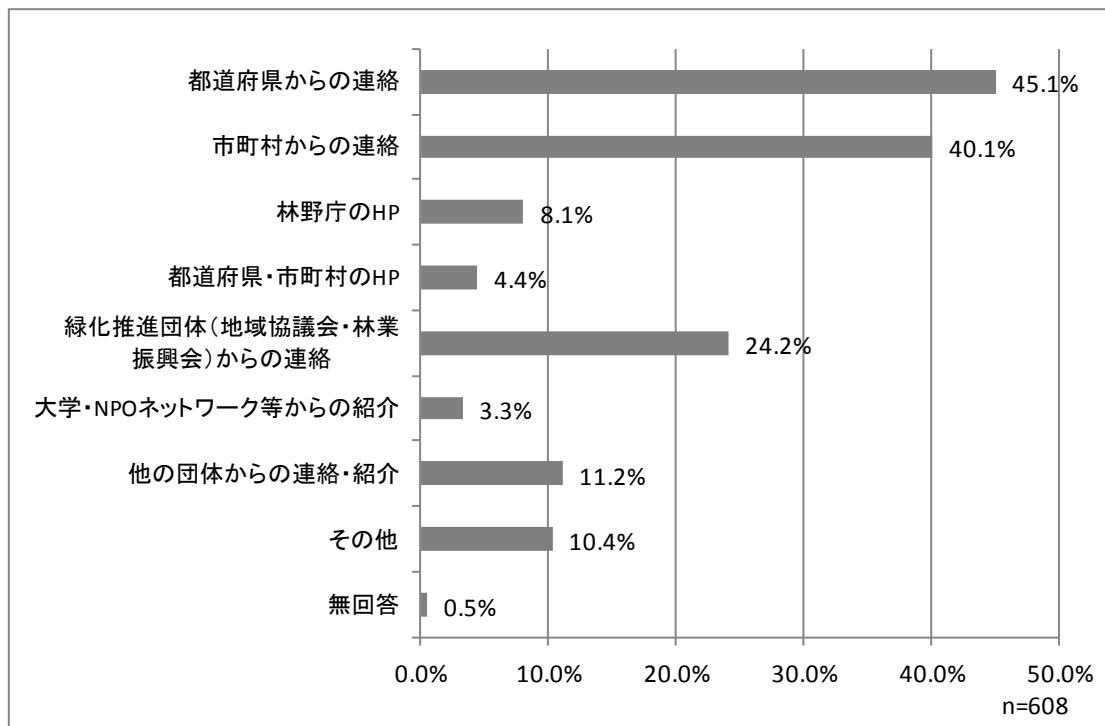
里山林の荒廃の改善以外の回答では、団体の活動資金確保(32.4%)、活動を充実させるための資機材確保(28.6%)といった、資金・資機材面の充実を図るために交付金を活用した団体が目立った。この他の選択肢を選んだ活動組織も多くなっており、さまざまな目的に交付金が活用されている状況が明らかとなった。

本交付金の情報入手先(図表 2-13)としては、都道府県からの連絡(45.1%)、市町村からの連絡(40.1%)が4割を超えた。地域協議会や林業振興会といった緑化推進団体からの連絡(24.2%)、他の団体からの連絡・紹介(11.2%)も1割以上の回答があり、活動組織は多様なチャンネルから本交付金の存在を認知したことがわかる。「その他」では、森林管理署、森林組合などから連絡を受けたとの回答が目立った。

図表 2-12 交付金を活用した目的（複数回答）



図表 2-13 交付金の情報を入手した先（複数回答）



2.3 活動の対象となった森林の状況

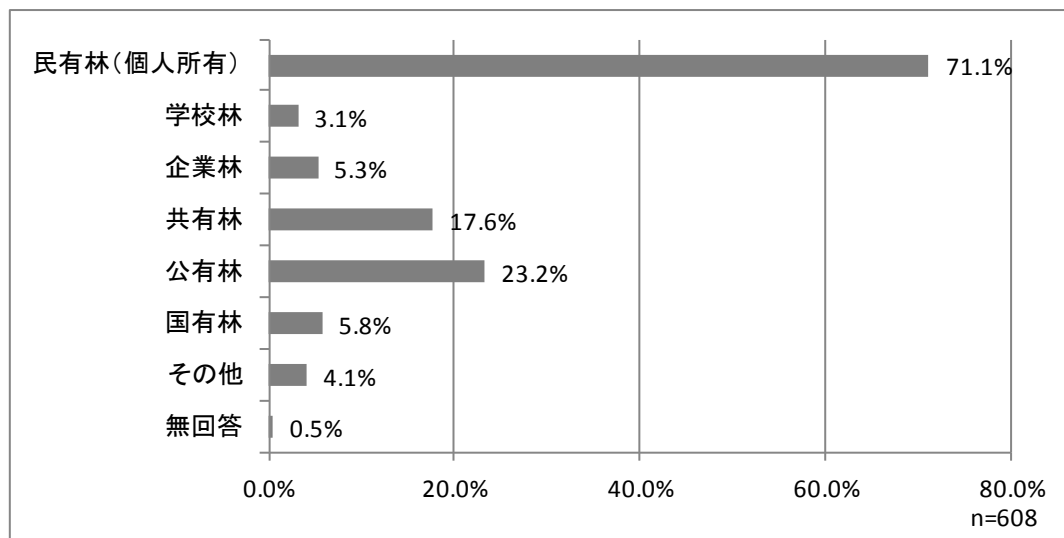
活動の対象となった森林（以下、「対象森林」という。）の所有状況（図表 2-14）は、民有林が 71.1%と圧倒的に多くなった。公有林（23.2%）、共有林（17.6%）は 2 割前後であり、地方自治体や地域の里山整備にも交付金が活用されている様子がうかがえる。国土に占める面積と比べると、活動対象となった企業林（5.3%）、学校林（3.1%）の割合は大きくなった。

対象森林の形態（図表 2-15）は、人工林（58.7%）と天然林（55.9%）が同程度になった。竹林（35.5%）は侵入竹除去・竹林整備活動における対象森林であるとみられ、2.1 でみた活動タイプ別の割合（図表 2-10 p.15）と一致する。「その他」では、雑木林、荒廃地などの回答が目立った。

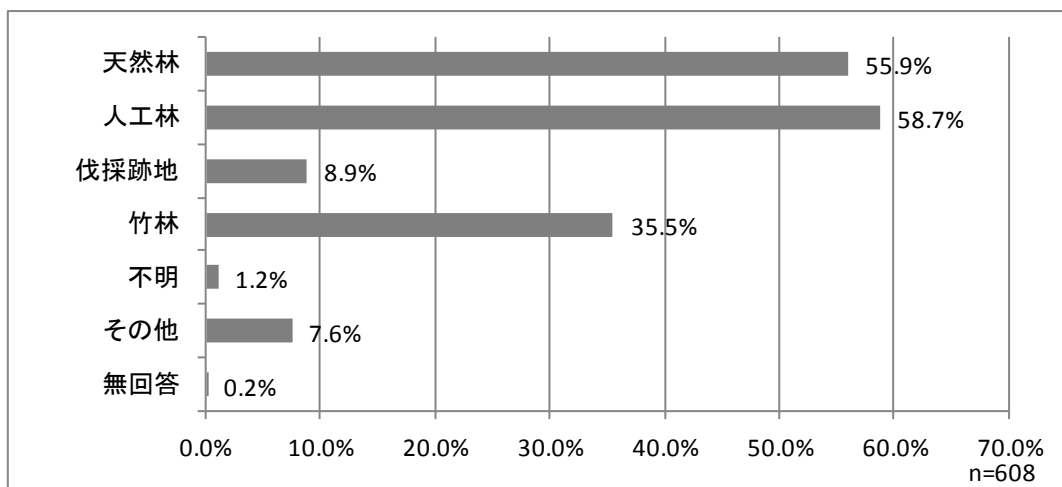
対象森林の樹種（図表 2-16）は、混交（32.1%）が最も多く、広葉樹（29.6%）、針葉樹（26.2%）が続いた。こうした結果は、本交付金によって、これまで手が入りにくかった広葉樹林、混交林の整備が進んだことを示唆するものと考えられる。

対象森林における活動実績（図表 2-17）は、事業申請後に活動を開始したとする回答が 48.8%に上っており、本交付金を活用した事業の対象となった森林の半分程度が今回の事業を契機として新たに整備されたことが明らかとなった。

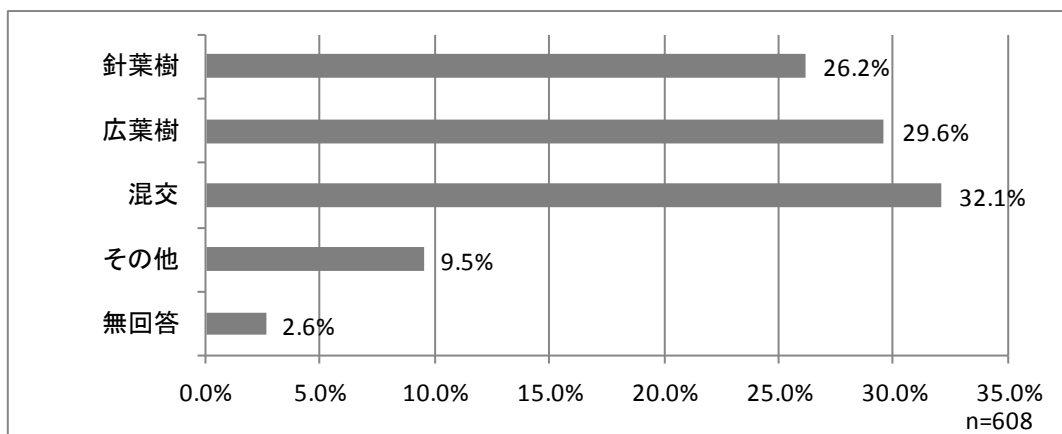
図表 2-14 対象森林の所有状況（複数回答）



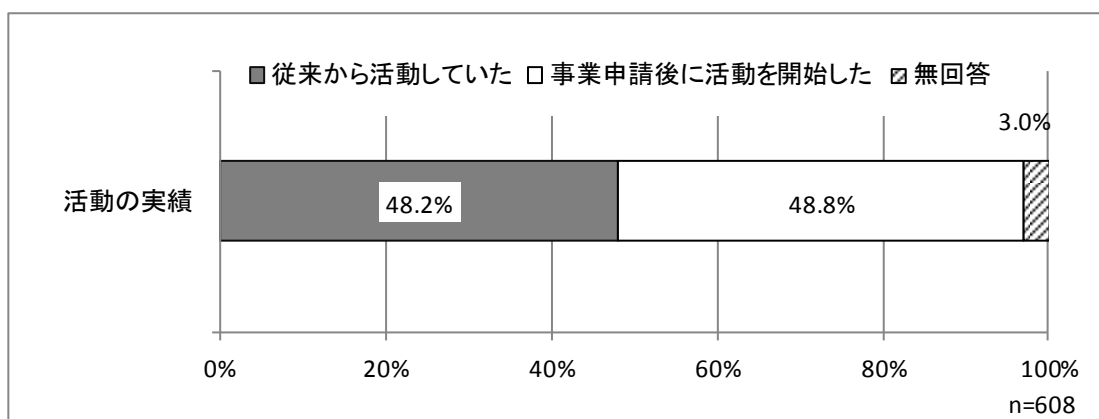
図表 2-15 対象森林の形態（複数回答）



図表 2-16 対象森林の樹種（単数回答）



図表 2-17 対象森林における活動実績（単数回答）



3 活動タイプ別の活動状況

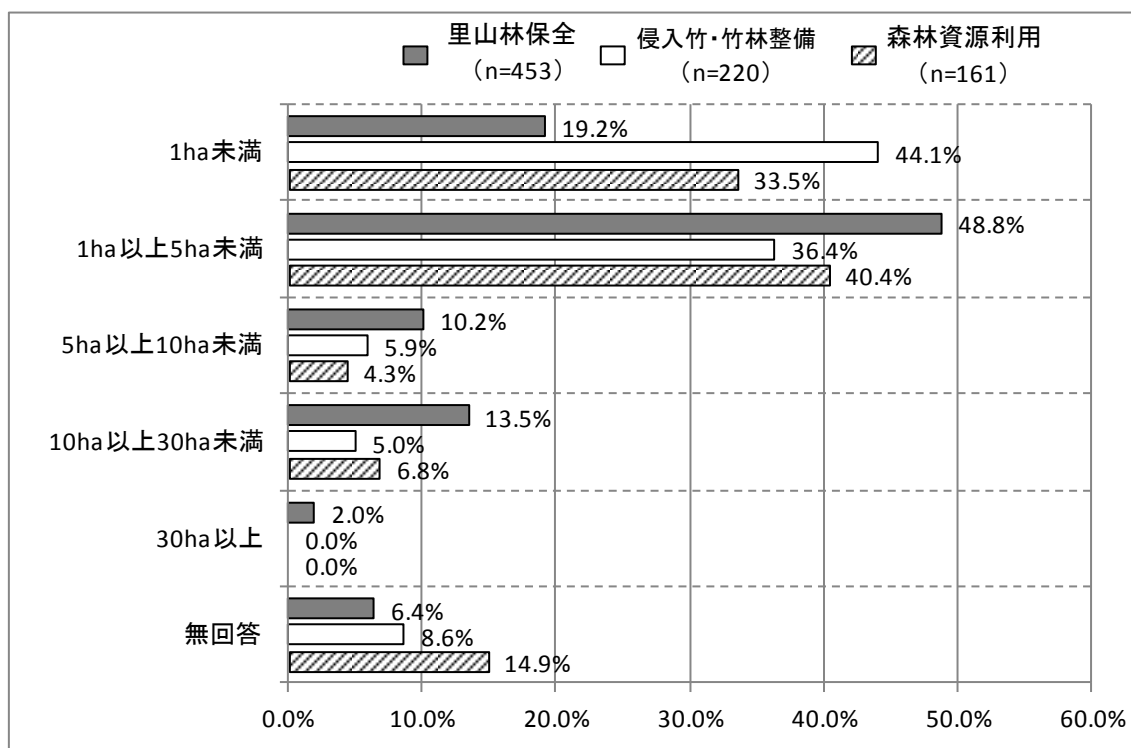
3.1 対象森林の面積

里山林保全活動では、「1ha 以上 5ha 未満」が最も多いが、他の活動タイプと比べ 5ha 以上の対象森林で活動した団体が多い。対象森林の面積は大きい傾向がみられ、平均値は 5.4ha、中央値は 2.1ha となった。

侵入竹除去・竹林整備活動は、「1ha 未満」が最も多く、「1ha 以上 5ha 未満」が続いた。5ha 未満とした回答が 8 割を占めており、対象森林の面積は他の活動タイプより小さい傾向がみられる。面積の平均値は 2.1ha、中央値は 1.0ha となった。

森林資源利用タイプは、「1ha 以上 5ha 未満」、「1ha 未満」が多く、平均値は 2.9ha、中央値は 1.0ha となった。対象森林の面積は、侵入竹除去・竹林整備活動と同様、小さい傾向となった。

図表 2-18 活動タイプ別の対象森林面積（数量回答）



図表 2-19 対象森林面積の平均値・中央値

(単位：ha)

	里山林保全 (n=453)	侵入竹除去・竹林整備 (n=220)	森林資源利用 (n=161)
合計	2,294.2	429.3	390.9
平均値	5.4	2.1	2.9
中央値	2.2	1.0	1.0

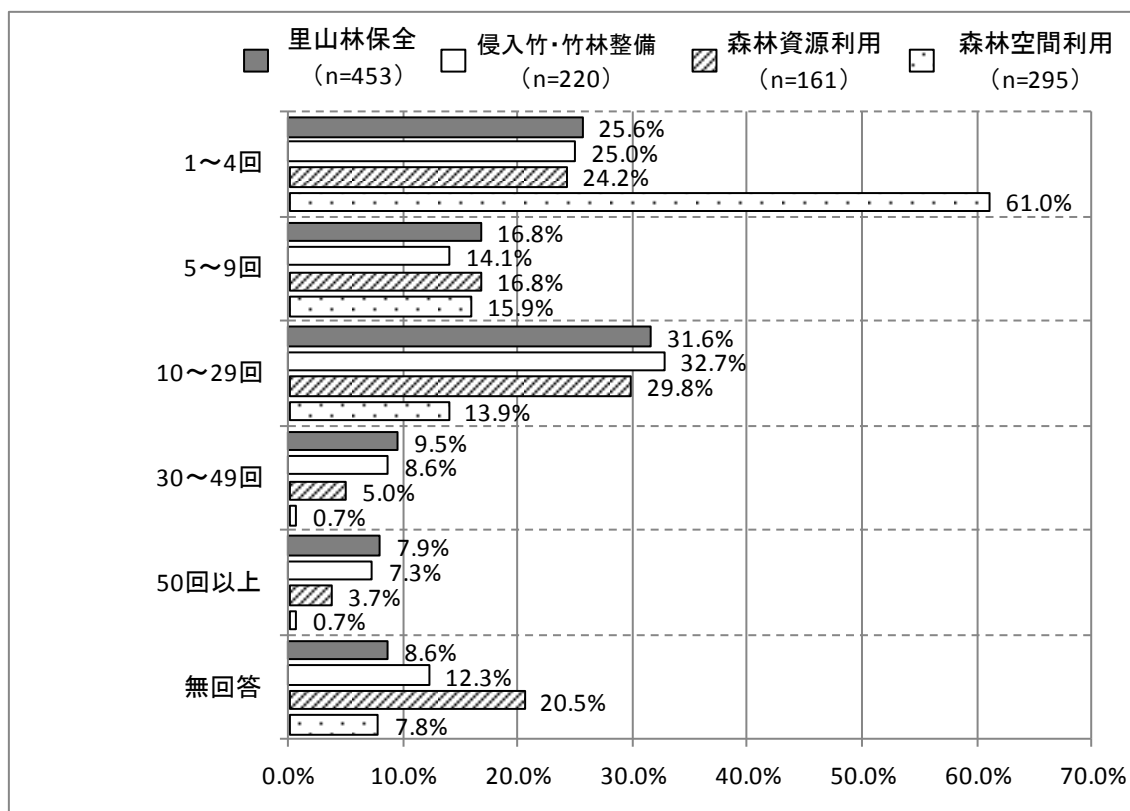
3.2 年間活動回数

里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動では、「10～29回」、「1～4回」が多く、平均値は里山林保全活動が18.4回、侵入竹除去・竹林整備活動が19.4回、中央値はいずれも10.0回で、年間活動回数は多い傾向がみられた。

森林資源利用タイプについても、「10～29回」、「1～4回」が多いが、平均値13.8回、中央値8.5回となっており、里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動と比べると年間活動回数はやや少ない。

森林空間利用タイプは、「1～4回」が6割を超え、平均値は5.4回、中央値は3.0回で、年間活動回数は他の活動タイプと比べ少なくなった。

図表 2-20 活動タイプ別の年間活動回数（数量回答）



図表 2-21 年間活動回数の平均値・中央値

(単位：回)

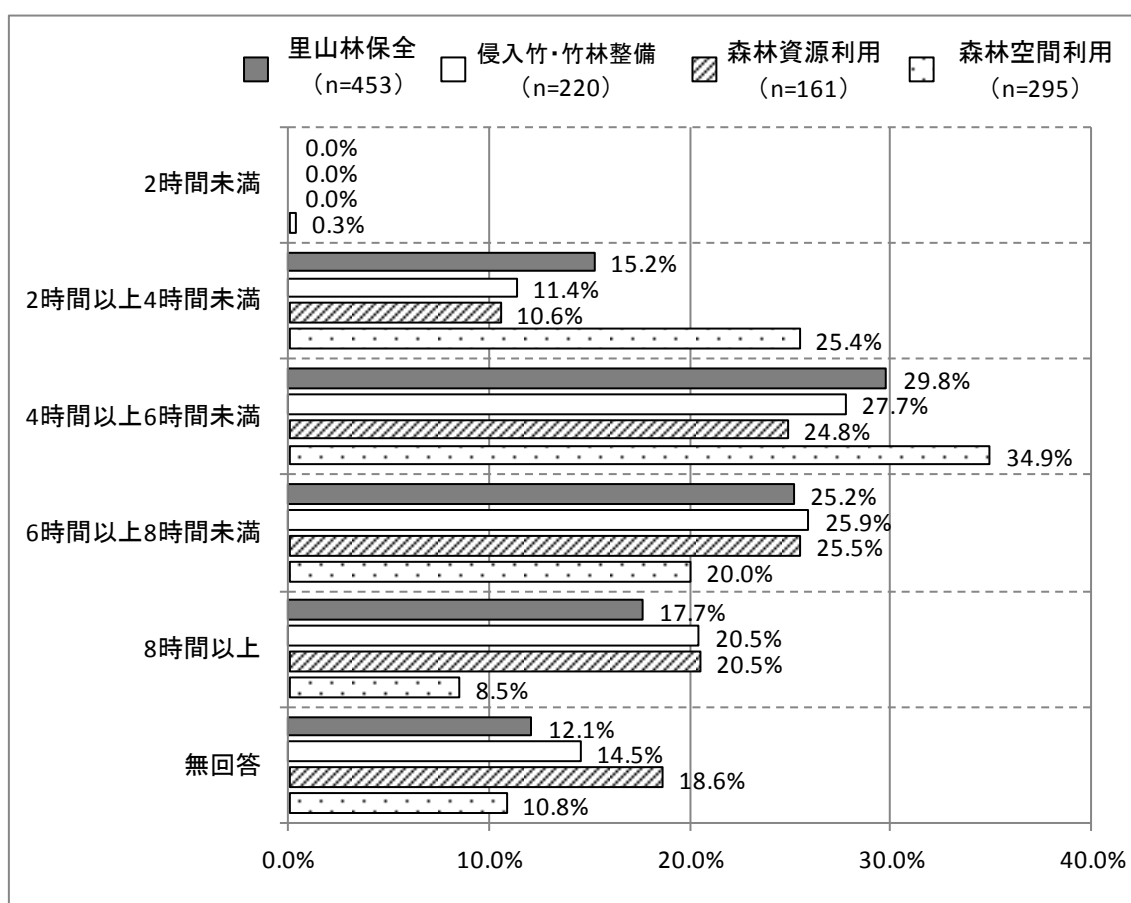
	里山林保全 (n=453)	侵入竹除去・竹林整備 (n=220)	森林資源利用 (n=161)	森林空間利用 (n=295)
合計	7,603.5	3,744.0	1,763.0	1,459.7
平均値	18.4	19.4	13.8	5.4
中央値	10.0	10.0	8.5	3.0

3.3 1回あたりの平均活動時間

里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動、森林資源利用タイプとも、「4時間以上6時間未満」、「6時間以上8時間未満」が多くなり、平均値、中央値とも5時間を超えている。これらの活動タイプでは、1日ばかりで活動を行うことが多いとみられる。

森林空間利用タイプでは、「2時間以上4時間未満」、「4時間以上6時間未満」が多く、平均値は5.0時間、中央値は4.0時間となっており、半日程度の活動を行う活動組織が多くなっていることがうかがえる。

図表 2-22 活動タイプ別の1回あたりの平均活動時間（数量回答）



図表 2-23 1回あたりの平均活動時間の平均値・中央値

(単位：時間)

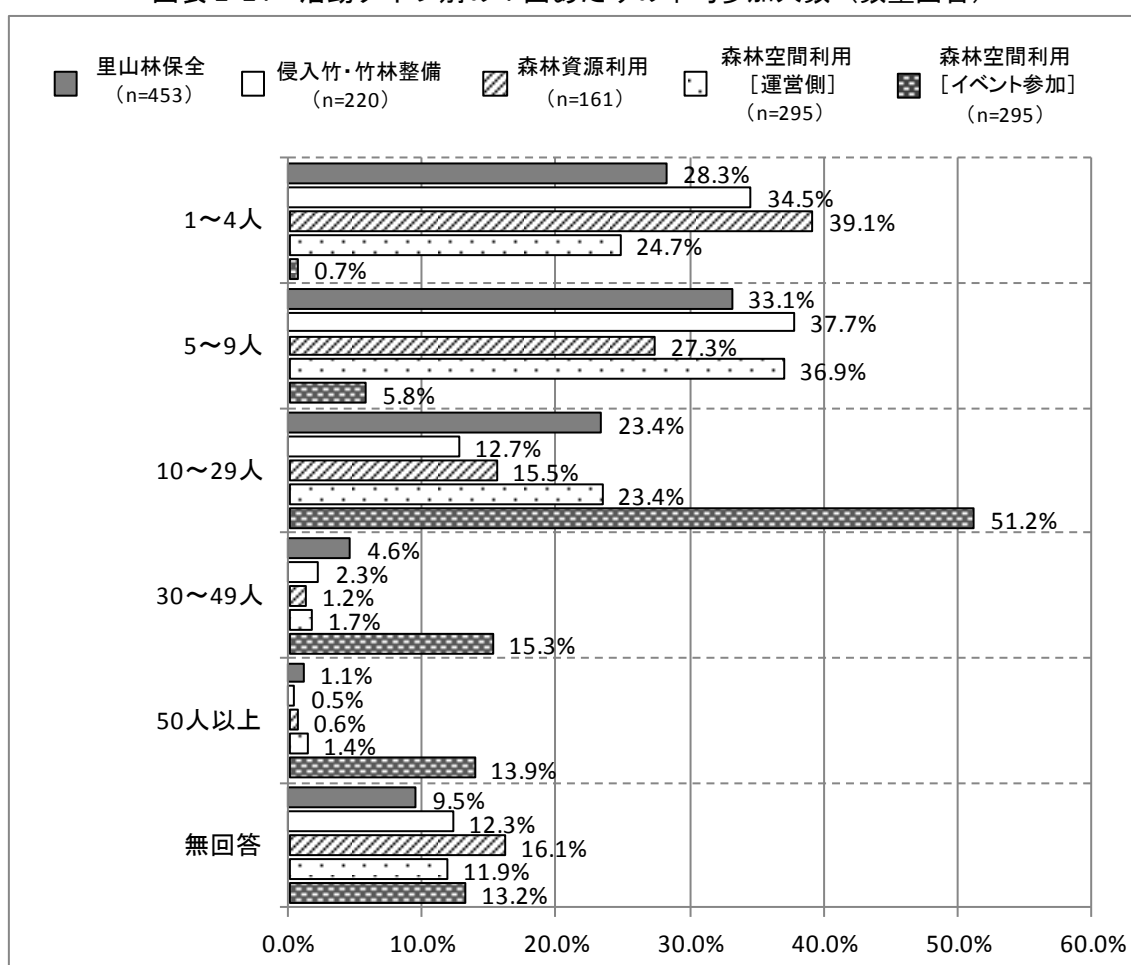
	里山林保全 (n=453)	侵入竹除去・竹林整備 (n=220)	森林資源利用 (n=161)	森林空間利用 (n=295)
合計	2,237.0	1,131.2	790.1	1,317.3
平均値	5.6	6.0	6.0	5.0
中央値	5.2	6.0	6.0	4.0

3.4 1回あたりの平均参加人数

里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動、森林資源利用タイプでは、いずれも「1～4人」、「5～9人」が多くなった。平均値、中央値とも里山林保全活動が最も大きく、他の活動タイプよりも1回あたりの参加人数がやや多くなっている。

森林空間利用タイプは、運営側である活動組織の参加人数と、イベント参加者の人数を尋ねた。運営側は「5～9人」が最も多く、イベント参加者は「10～29人」が最も多くなった。イベント参加者の平均値は32.1人、中央値は20.0人と多く、森林空間利用タイプで実施されるイベントには、多くの参加者が集まっていることが明らかとなった。

図表 2-24 活動タイプ別の1回あたりの平均参加人数（数量回答）



図表 2-25 1回あたりの平均参加人数の平均値・中央値

(単位：人)

	里山林保全 (n=453)	侵入竹除去・竹林整備 (n=220)	森林資源利用 (n=161)	森林空間利用 [運営側] (n=295)	森林空間利用 [イベント参加] (n=295)
合計	3,967.7	1,476.8	966.9	2,196.4	8,214.2
平均値	9.7	7.7	7.2	8.4	32.1
中央値	6.0	5.0	5.0	6.0	20.0

3.5 森林資源利用タイプ・森林空間利用タイプの活動内容

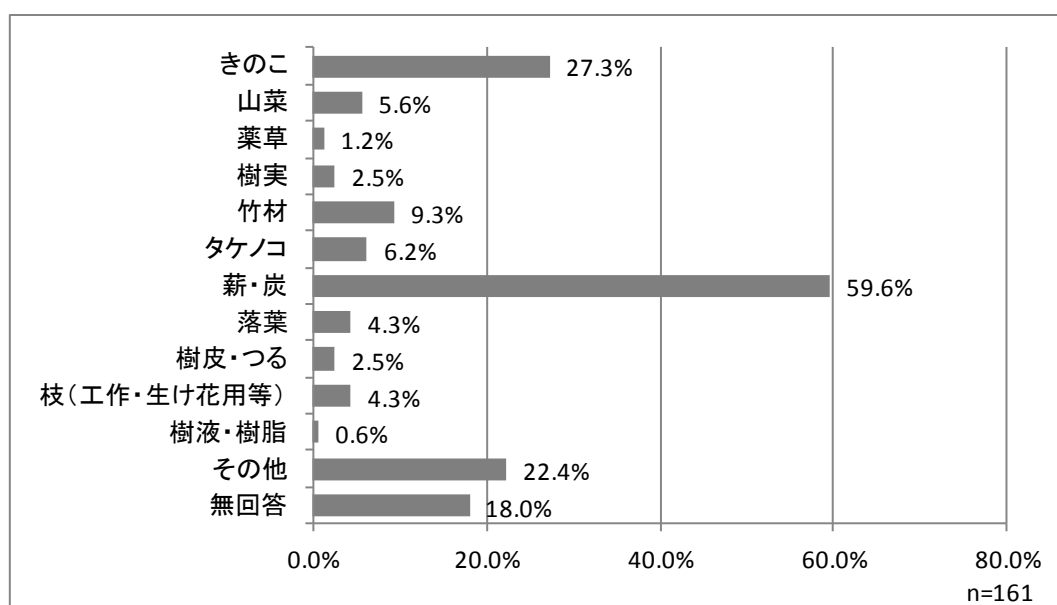
(1) 森林資源の種類と販売先（森林資源利用タイプ）

利用した森林資源の種類（図表 2-26）は、薪・炭（59.6%）が最も多く、きのこ（27.3%）が続いた。これら以外の森林資源についても、割合は低いものの利用されていることが確認できた。「その他」では、材木用木材、木材チップ、竹チップ、きのこ原木・ほだ木といった回答が多くなった。

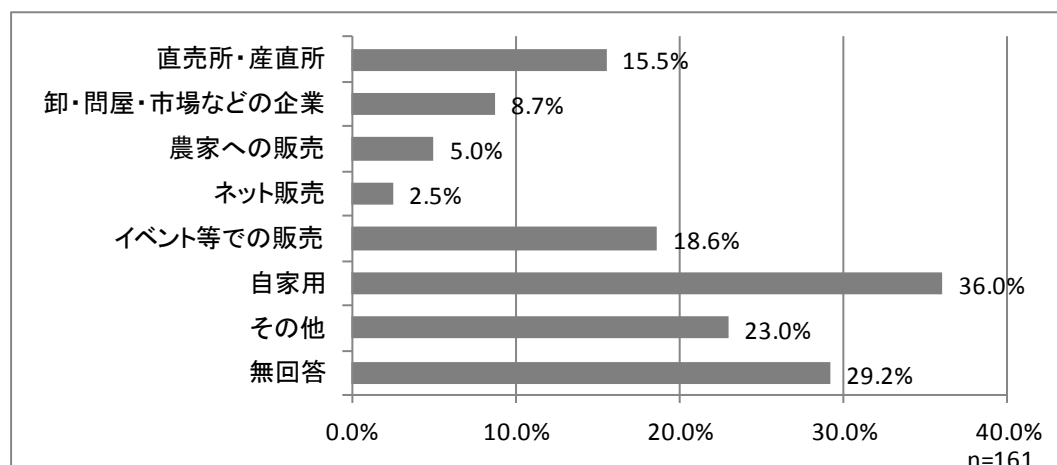
森林資源の販売先は（図表 2-27）は、自家用（36.0%）が最も多くなった。「その他」の内容は、「会員や希望者に配布した」、「将来的な商品化を検討している」などが多い。

無回答の割合も高くなっていることから、販売チャネルを持たないケースが多くなっている可能性が高く、販路開拓が今後の課題であると考えられる。

図表 2-26 利用した森林資源の種類（複数回答）



図表 2-27 森林資源の販売先（複数回答）

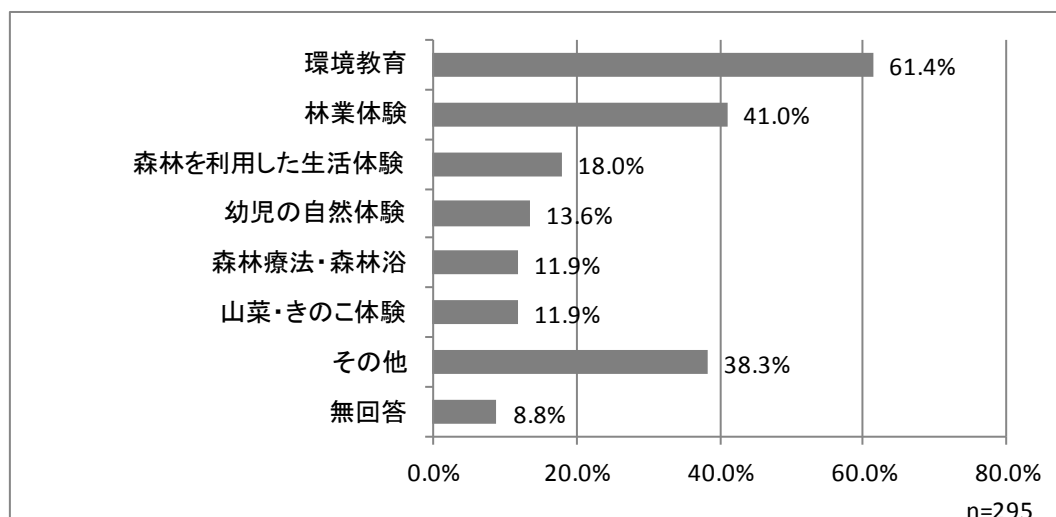


(2) イベントの内容・参加者（森林空間利用タイプ）

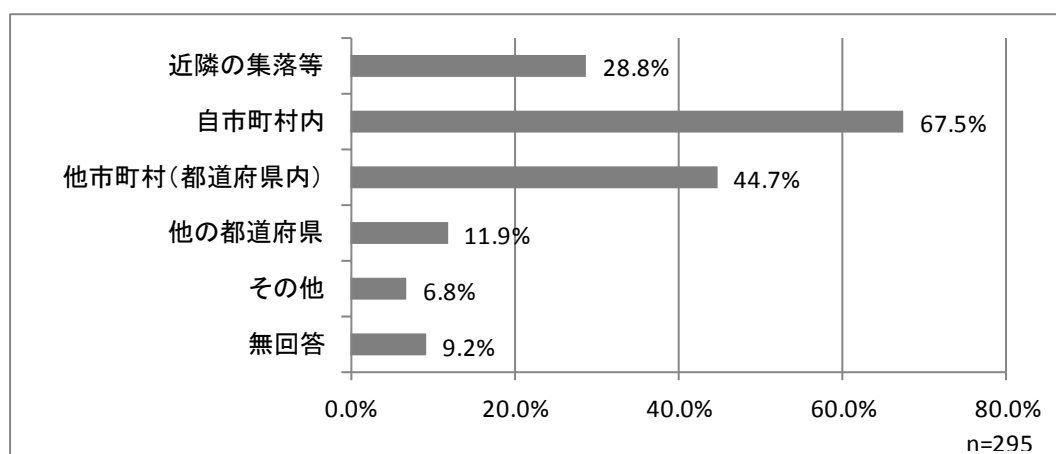
森林空間利用タイプで実施したイベントの内容（図表 2-28）は、環境教育（61.4%）が最も多く、林業体験（41.0%）が続いた。「その他」は、木工体験や安全講習会（チェーンソー等）、きのこの駒打ちが主な回答となっている。

イベント参加者の居住地（図表 2-29）は、自市町村内（67.5%）、他市町村（都道府県内）（44.7%）が多くなった。近隣の集落は約 3 割、他の都道府県は約 1 割となった。イベント参加者の形態（図表 2-30）も多様であり、森林空間利用タイプで実施されたイベントでは、居住地や年齢、職業など、さまざまな背景を持った参加者の交流が図られたことがうかがえる。

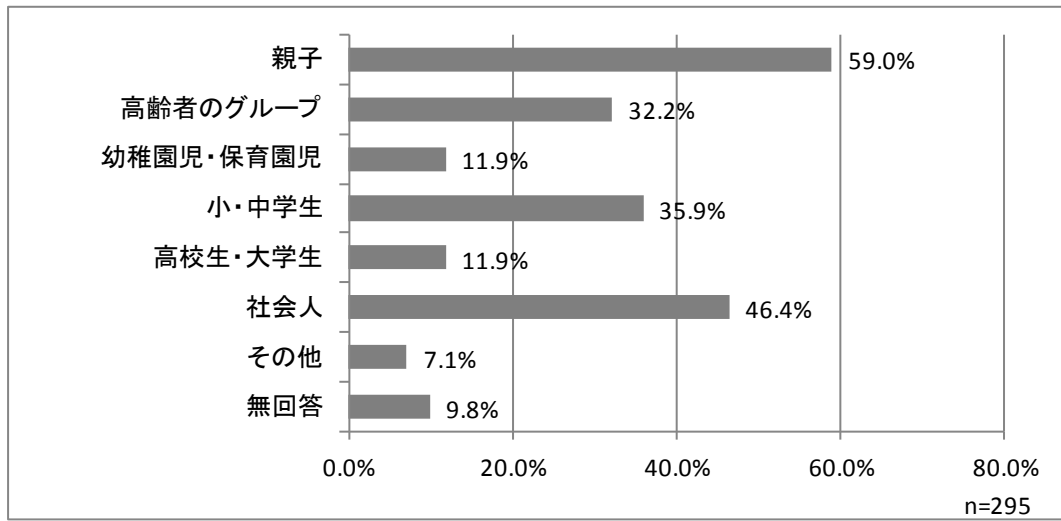
図表 2-28 実施したイベントの内容（複数回答）



図表 2-29 イベント参加者の主な居住地（複数回答）



図表 2-30 イベント参加者の主な形態（複数回答）



4 資機材・施設購入と業務委託の状況

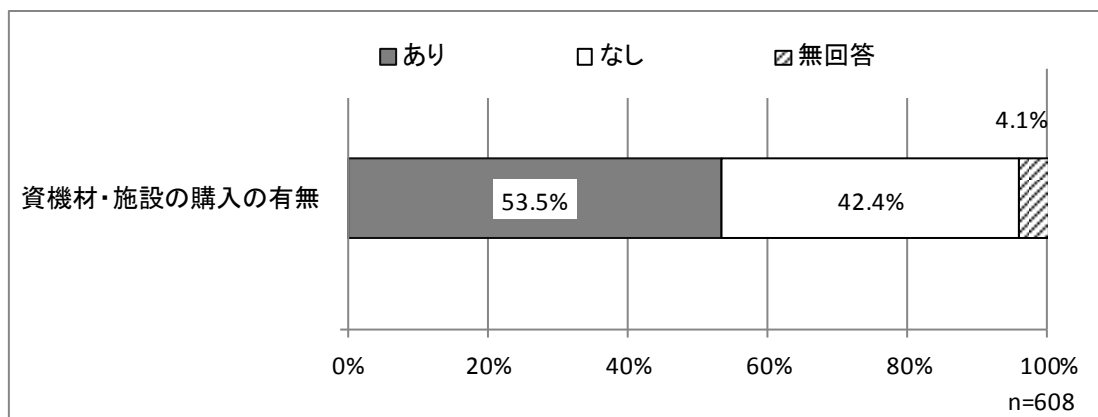
4.1 資機材・施設購入の状況

(1) 資機材・施設の購入の有無と購入にあてた交付金の額

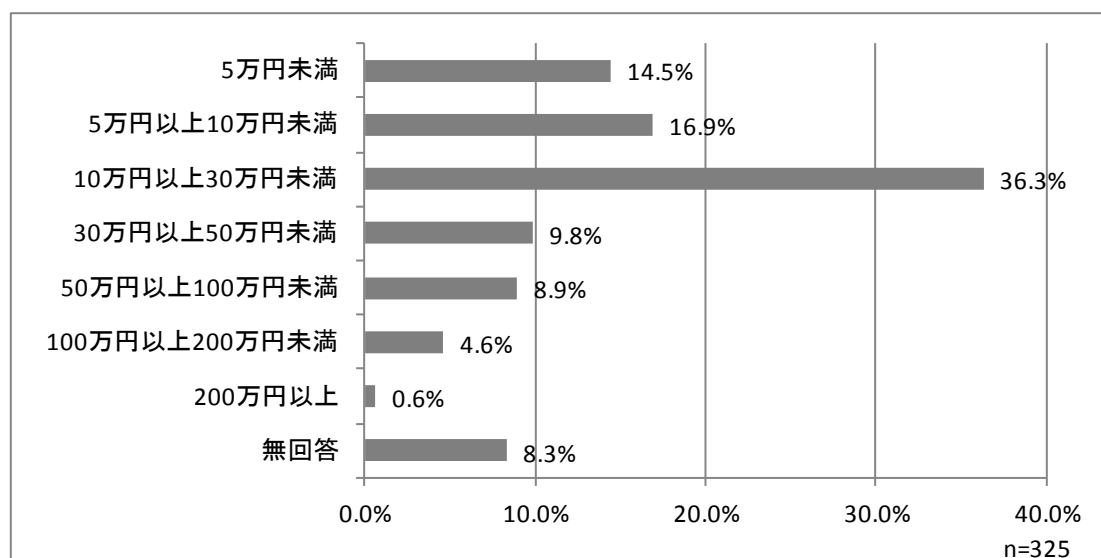
資機材・施設の購入の有無（図表 2-31）では、53.5%が「あり」と回答しており、半数以上の団体が活動のために資機材・施設を購入した。資機材・施設の購入にあてた本交付金の額（図表 2-32）は、10万円以上30万円未満（36.3%）が最も多く、5万円以上10万円未満（16.9%）、5万円未満（14.5%）が続いた。100万円以上200万円未満（4.6%）、200万円以上（0.6%）の団体もあり、バラつきが大きくなっている。

資機材・施設の購入にあてた交付金の額の平均値は280,093円、中央値は160,000円となった。

図表 2-31 資機材・施設の購入の有無（単数回答）



図表 2-32 資機材・施設の購入にあてた交付金の額（数量回答）

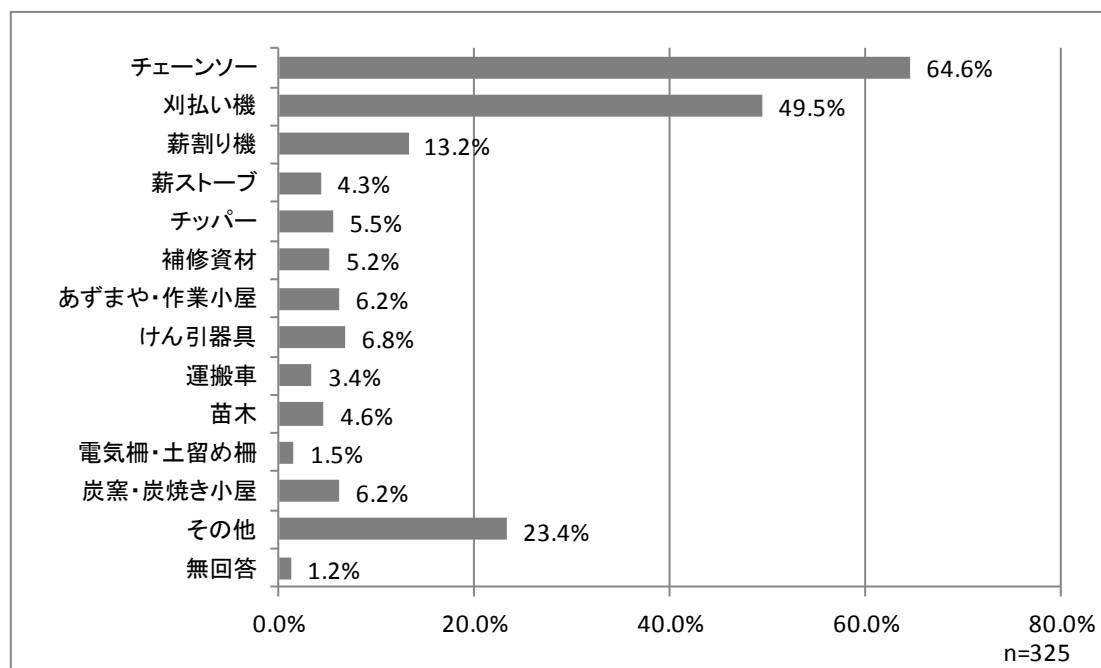


(2) 購入した資機材・施設の品目と購入目的

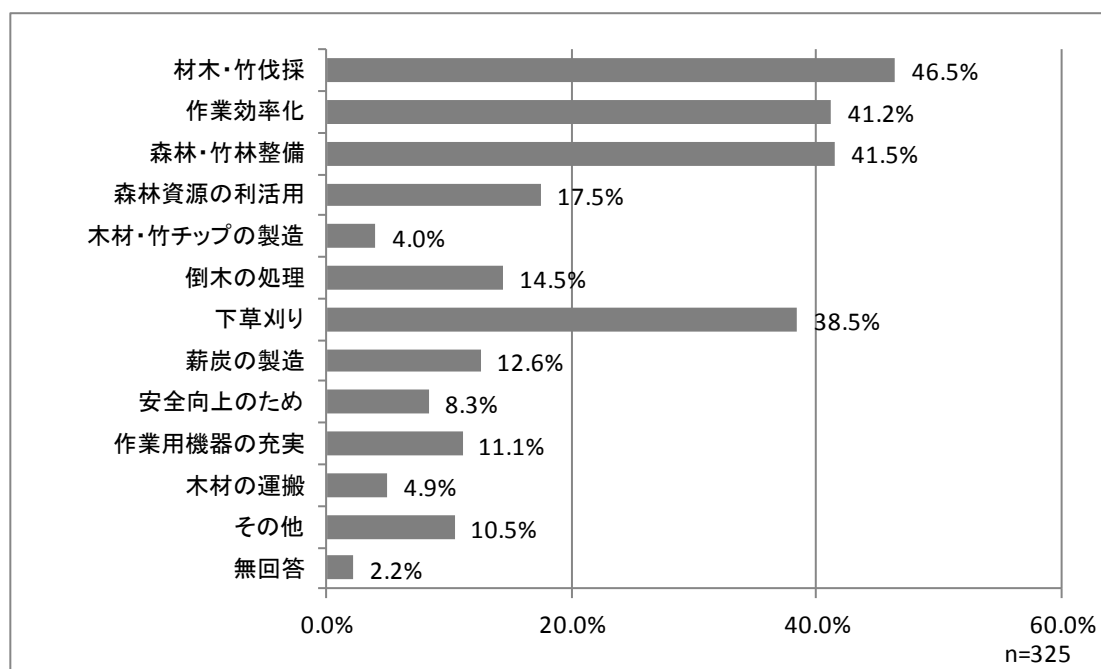
購入した資機材・施設の品目（図表 2-33）は、チェーンソー（64.6%）が最も多く、刈払い機（49.5%）が続いた。

購入目的（図表 2-34）は、材木・竹伐採（46.5%）、森林・竹林整備（41.5%）、作業効率化（41.2%）、下草刈り（38.5%）が多くなった。

図表 2-33 購入した資機材・施設の品目（複数回答）



図表 2-34 資機材・施設の購入目的（複数回答）

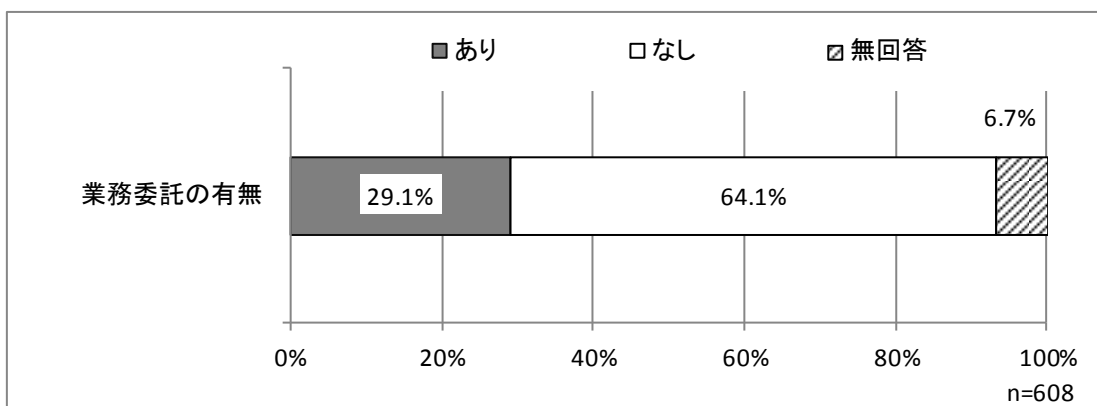


(3) 外部委託の有無と委託先

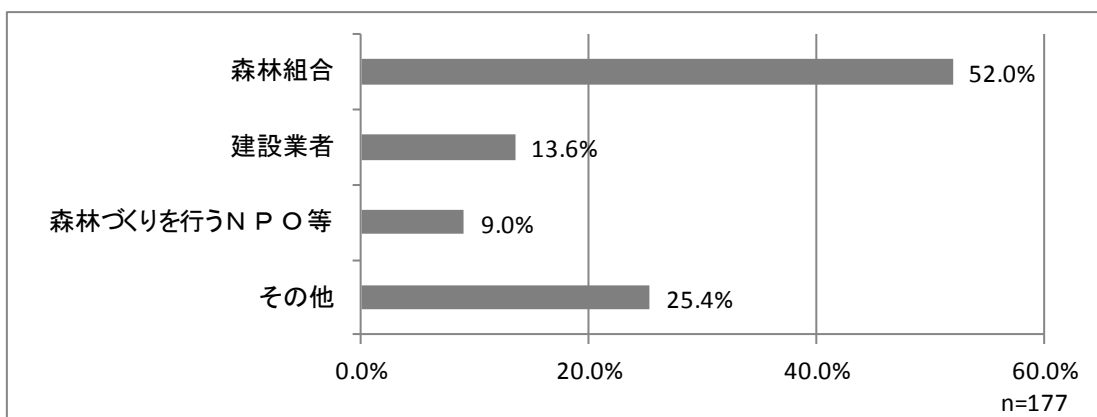
業務を外部委託した団体は29.1%、委託しなかった団体は64.1%となった(図表 2-35)。外部委託した業務の内容は多岐にわたっているが、除間伐や作業道の作設が主なものとなっている。

委託先は、森林組合(52.0%)が最も多くなった。「その他」では、林業関連業者、造園業者、シルバー人材センターなどの回答が目立つ(図表 2-36)。

図表 2-35 業務委託の有無(単数回答)



図表 2-36 業務の委託先(単数回答)



5 交付金を活用したことによる効果

5.1 活動前の森林の状態

(1) 活動前の森林の状況

本交付金を活用して整備した対象森林の面積（図表 2-37）は、活動前にどのような状態であったかを尋ねた（図表 2-38）。

活動前の状態は、全体の 54.1%が「手入れが行われず、荒れた状態」であり、「適切な手入れが行われていた」（6.0%）、「多少の手入れが行われていた」（27.6%）とした回答は 3 割強にとどまった。対象森林の多くが、これまで適切な手入れがされていなかった森林であり、交付金の活用によって整備が進んだことが明らかとなった。

また、活動前に多少なりとも整備されていたと考えられる森林（活動前の状態で「適切な手入れが行われていた」、「多少の手入れが行われていた」、「その他」と回答したもの）の整備主体は、「アンケートの回答団体（活動組織）」が 43.1%と最も多く、「森林所有者」（34.4%）が続いた。

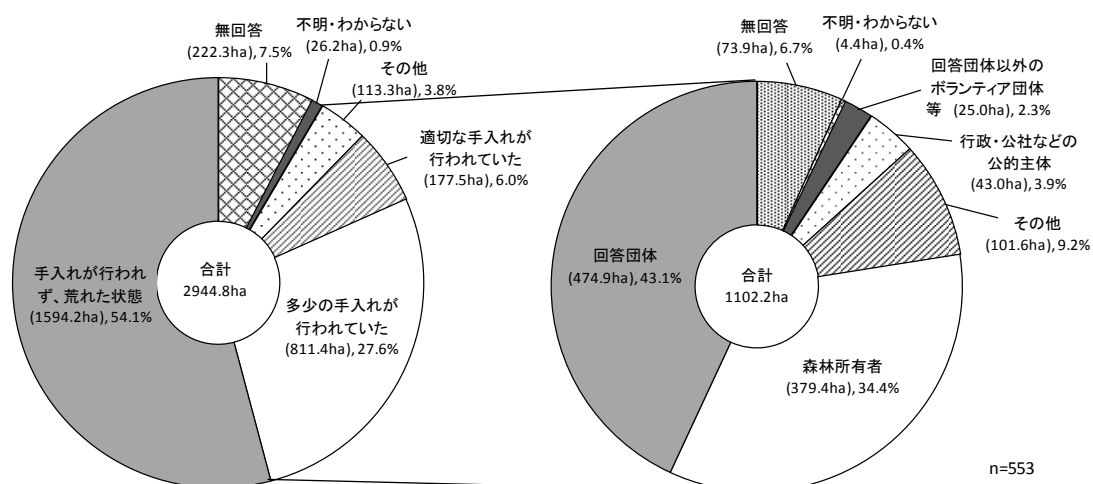
図表 2-37 交付金を活用して整備した対象森林の面積（数量回答）

（単位：ha）

里山林保全 (n=414)	侵入竹除去・竹林整備 (n=200)	森林資源利用 (n=136)	合計 (n=553)
2,161.5	407.0	376.3	2,944.8

※3.1（図表 2-19）で示した「対象森林の面積」とは別の設問で面積を確認したため、数量と回答者数が異なっている

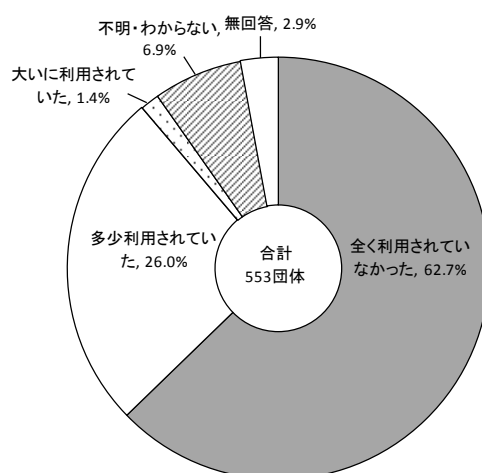
図表 2-38 対象森林の活動前の状態（左）と活動前の森林の整備主体（右）（数量回答）



(2) 活動前の森林資源の利用状況

本交付金を活用した活動前に対象森林で森林資源が利用されていたかを尋ねた（図表 2-39）。「全く利用されていなかった」（62.7%）が最も多く、「多少利用されていた」（26.0%）、「大いに利用されていた」（1.4%）は少数となった。活動前の対象森林では、森林資源利用についても進んでいなかった状況がうかがえる。

図表 2-39 活動前の森林資源の利用状況（単数回答）



5.2 交付金を活用したことによる効果

本交付金を活用したことによって得られた効果を活動タイプ別に確認した。それぞれの活動タイプについて、11個の評価項目ごとに1～5（1：大きな効果があった、2：ある程度効果があった、3：どちらともいえない、4：効果は弱かった、5：効果はなかった）の5段階で効果を尋ね、効果があった（1：大きな効果があった、2：ある程度効果があった、の合計）と回答した割合を図表 2-40 に示した。

「景観の保全・修復に関する効果」は、里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動で8割を超えたほか、森林資源利用タイプ、森林空間利用タイプでも割合が高くなっている。同様に「森林に対する住民の意識・関心を高める効果」も、森林空間利用タイプをはじめ、各活動タイプの割合が高くなった。また、「里山生活・文化の保全継承に関する効果」、「住民間のつながり再生に関する効果」についても、効果があったとする回答が多くなった。自由記述形式で尋ねた、活動を通して最も印象に残ったエピソード（図表 2-41）の回答をみても、活動組織がこれらの効果を強く感じていることがうかがえる。

このように各活動組織の活動は、里山林の景観保全と、住民の森林に対する意識向上、地域コミュニティの活性化に寄与しており、本対策の趣旨、目的と合致した成果が得られたことが明らかとなった。また、「森林資源の利活用に関する効果」などでみてとれるとおり、活動タイプによって得られた効果が異なっており、活動組織がそれぞれの目的

に応じて、活動タイプを有効に使い分けたこともうかがえる結果となった。

図表 2-40 活動タイプ別の交付金を活用したことによる効果の評価

項目	里山林保全活動 (地域環境保全タイプ)	侵入竹・竹林整備活動 (地域環境保全タイプ)	森林資源利用タイプ	森林空間利用タイプ
自然災害の防止・減災に関する効果	54.6%	53.2%	48.4%	28.8%
生物の多様性の促進・保護に関する効果	58.4%	51.6%	51.7%	52.2%
鳥獣害の防止・抑制に関する効果	43.3%	41.1%	36.1%	22.7%
景観の保全・修復に関する効果	85.9%	84.4%	71.3%	60.7%
木質バイオマス資源の利活用に関する効果	21.0%	21.1%	59.2%	23.4%
森林資源の利活用に関する効果	44.4%	46.2%	83.5%	51.8%
里山生活・文化の保全継承に関する効果	60.8%	51.9%	62.7%	69.4%
住民間のつながり再生に関する効果	61.7%	61.4%	51.7%	70.8%
企業や都市住民との新たな交流拡大に関する効果	28.6%	27.6%	29.6%	56.0%
森林療法等の場としての活用に関する効果	29.7%	17.0%	18.3%	44.7%
森林に対する住民の意識・関心を高める効果	68.9%	65.6%	65.8%	83.1%

※ 「大きな効果があった」、「ある程度効果があった」とした回答の割合が 6 割を超えたものを赤、4 割に満たなかったものを青で示している。

図表 2-41 活動を通して最も印象に残ったエピソード（自由記述）

活動の幅・交流の輪が広がった (74)
森林に対する住民の理解が深まった (49)
住民や山林所有者、イベント参加者から感謝された (62)
活動に参加する人が増えた (25)
荒廃した森林の整備が進んだ・景観が改善した (65)
動植物の生態系が再生した (10)
活動の費用が確保できた・人件費を支払うことができた (30)
森林資源の活用が図られた (16)
鳥獣被害が減少した (11)
参加者の意識・モチベーションがあがった (36)
その他 (32)

6 森林・山村多面的機能発揮対策に対する評価・要望

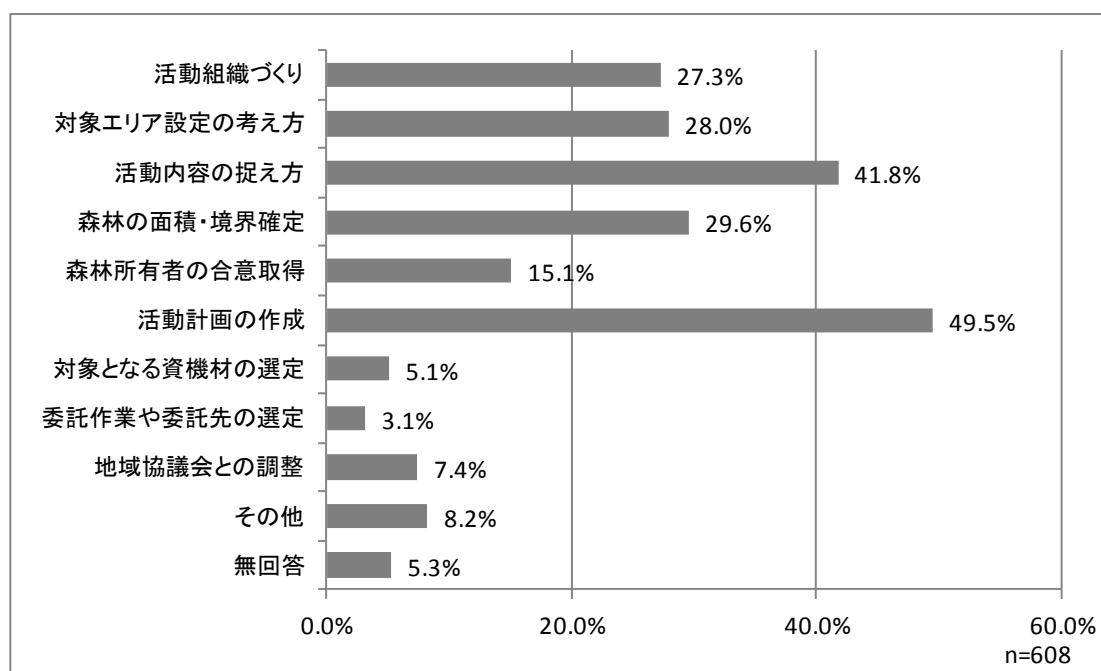
6.1 交付金を活用した取組に関する課題

(1) 申請に関する課題

活動計画の作成（49.5%）、活動内容の捉え方（41.8%）が4割を超えた。森林の面積・境界確定（29.6%）、対象エリア設定の考え方（28.0%）、活動組織づくり（27.3%）も3割近い回答を集めた（図表 2-42）。

上位2つは、活動計画書の作成や、活動計画書に盛り込む活動をどのようなものにするれば交付金の対象となるかという課題であり、申請に関する事務手続きや要件等の理解に苦労した状況がうかがえる。本対策の目的や内容の周知とともに、事務手続きに関する支援の充実を図ることができれば、こうした課題は軽減できるものと考えられる。

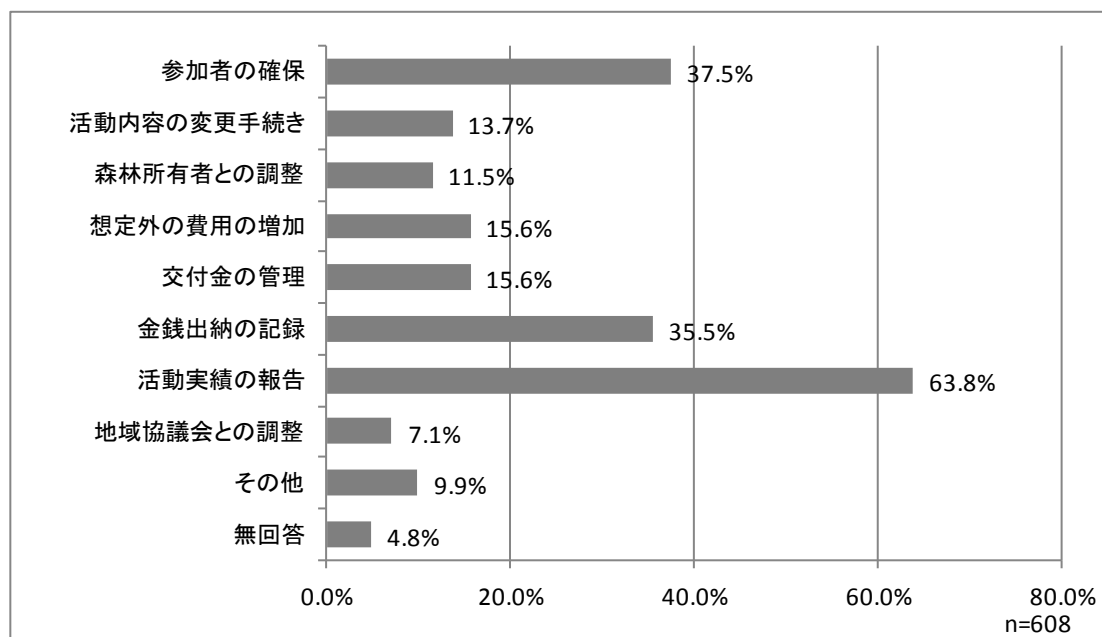
図表 2-42 交付金の申請に関して苦労したこと（複数回答）



(2) 活動に関する課題

活動実績の報告（63.8%）が6割を超えて最も多く、参加者の確保（37.5%）、金銭出納の記録（35.5%）が続いた（図表 2-43）。交付金を活用した活動を進めるうえで、最大の課題となっているのは実施状況報告書や金銭出納簿、活動記録、写真整理等の事務手続きであることがうかがえる。

図表 2-43 活動に関して苦労したこと（複数回答）

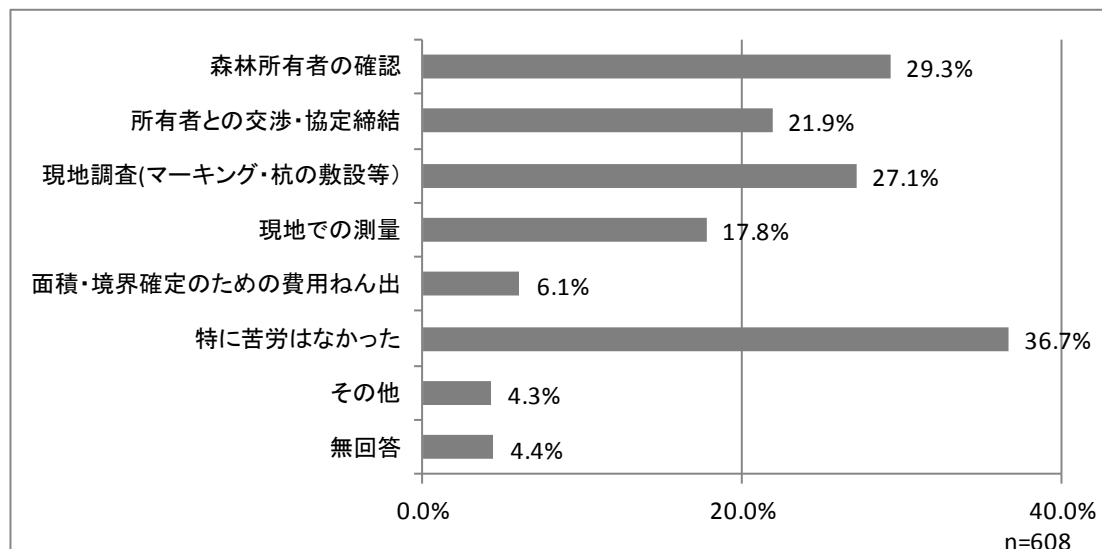


(3) 面積・境界確定に関して苦労したこと

特に苦労はなかった(36.7%)が最も多く、森林所有者の確認(29.3%)、現地調査(27.1%)は3割近くとなった(図表 2-44)。自由回答やヒアリングの結果から判断すると、森林所有者の確認については、特に、所有者が遠隔地に居住しているケースや相続手続きが未済のまま代替わりしているケースなどで困難になっているとみられる。現地調査に関しては、マーキングや杭の敷設等は時間を要するため、活動計画等の作成で支給が認められる15万円では実施が難しいとの意見があった。

自由記述形式で尋ねた面積・境界確定に関する意見・要望(図表 2-45)では、多様な面積測定を認めてほしい(航空写真の活用・GPS 測定の活用・図測要件の緩和)とする回答もみられた。対象森林の面積測定に関しては、図測やGPS 測量等による実施が可能であるが、一部の地域協議会で異なる制度運用が行われたため、このような回答もあったものとみられる。測量・図測に関する技術的な支援を希望する意見、土地の所有者・境界がわからないとの意見もみられた。

図表 2-44 面積・境界確定に関して苦労したこと



図表 2-45 面積・境界確定に関する意見・要望（自由記述）

- 耕作放棄地（地目：畑）への対象拡大を希望 （3）
- 急斜面の面積測定に関する希望（表面積での評価等） （3）
- 境界確定・測量に要する費用の配慮 （6）
- 森林簿・森林計画図等の入手に対する支援 （3）
- 多様な面積測定を認めてほしい（航空写真の活用・GPS 測量の活用・図測要件の緩和） （17）
- 測量・図測に関する技術的な支援を希望 （11）
- 地籍・森林簿等の面積と実測面積の差異が大きい （6）
- 土地の所有者・境界がわからない （10）
- 地籍調査の進展・森林簿の整備等が進んでおり問題なし （5）
- その他 （17）

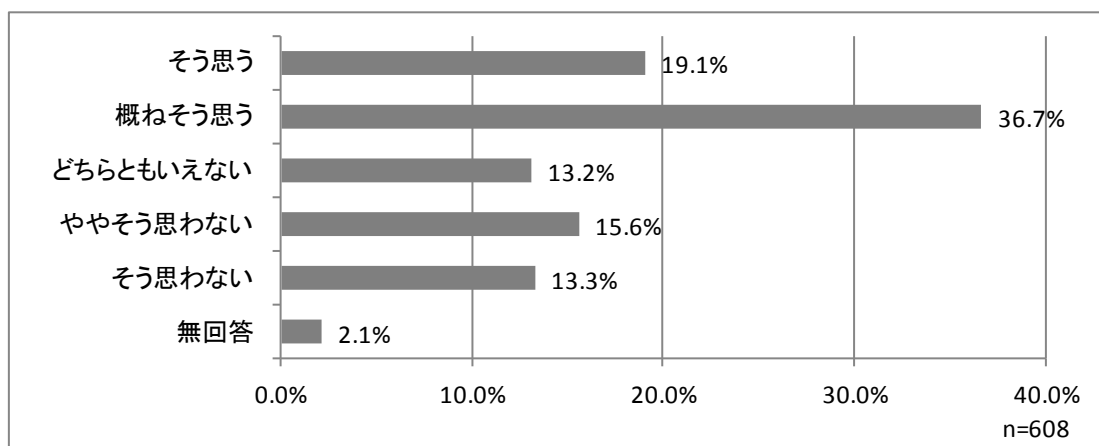
6.2 森林・山村多面的機能発揮対策に対する評価

(1) 交付金支給額・人件費の水準に関する評価

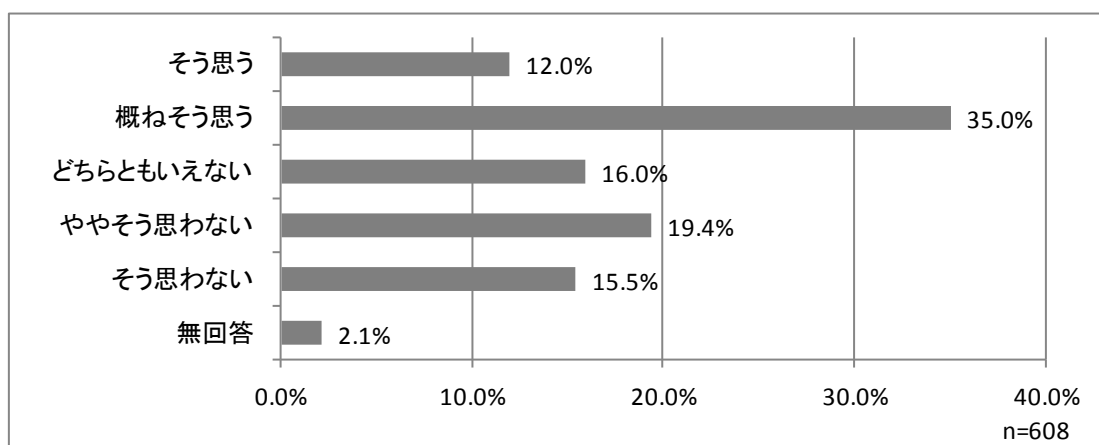
本交付金の支給額の水準は適正であったかを尋ねたところ、「概ねそう思う」が36.7%と最も多くなった(図表 2-46)。支給額の水準が適正でないと評価する団体も3割弱みられるものの、「そう思う」、「概ねそう思う」と回答した団体は6割近くに達しており、肯定的な評価が多くなっている。

活動に従事した人に十分な人件費を支払うことができたかを尋ねた設問は、「概ねそう思う」が35.0%と最も多くなった(図表 2-47)。「そう思う」、「概ねそう思う」を合わせた肯定的な回答は約5割となっている。

図表 2-46 交付金の支給額は適正であったか(単数回答)



図表 2-47 活動に従事した人に十分な人件費を支払うことができたか(単数回答)



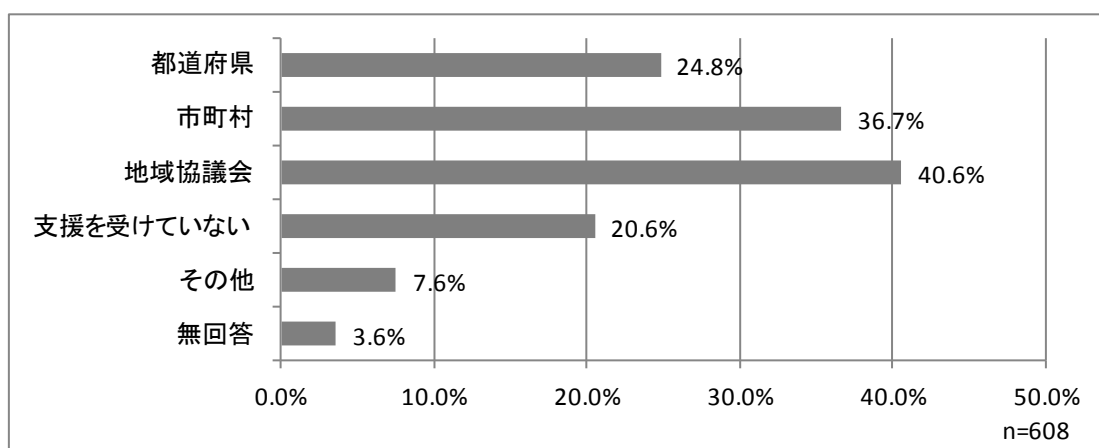
(2) 行政・地域協議会からの支援に関する要望

交付金申請や活動に関して支援を受けた組織（図表 2-48）は、地域協議会が 40.6%と最も多くなり、市町村（36.7%）、都道府県（24.8%）が続いた。

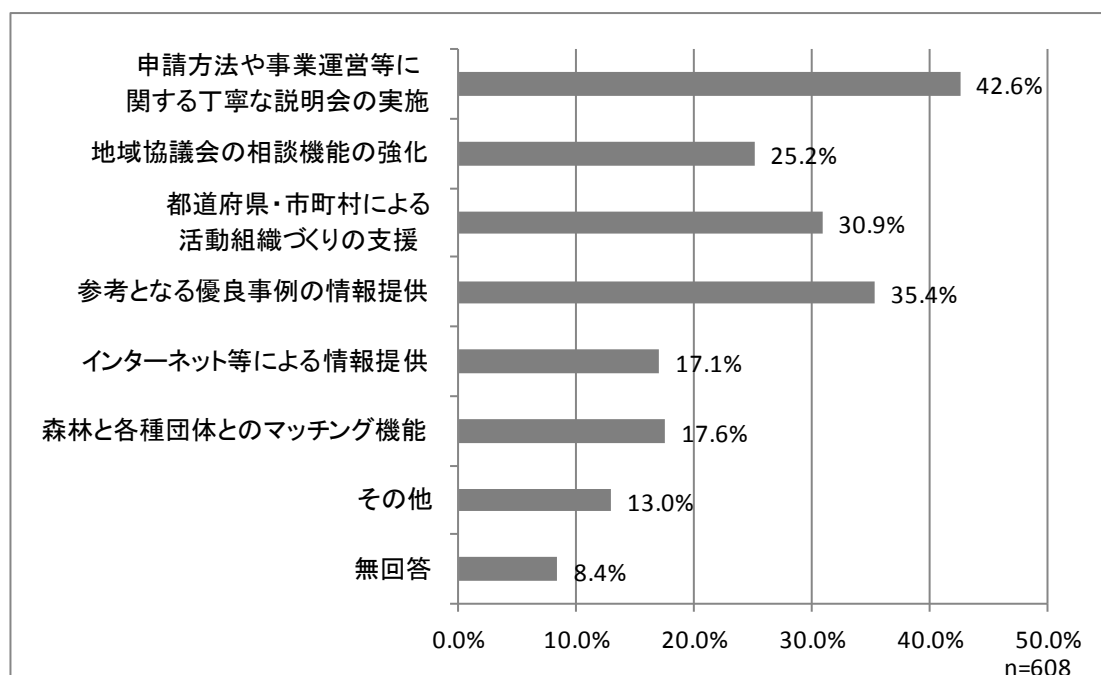
支援を受けたい項目（図表 2-49）は、申請方法や事業運営等に関する丁寧な説明会の実施（42.6%）が最も多く、参考となる優良事例の情報提供（35.4%）、都道府県・市町村による活動組織づくりの支援（30.9%）をあげた回答も目立った。

事務手続きに困難を感じる活動組織が多いため、実務に関する具体的な情報提供を求める声が多くなっており、支援の充実が望まれる。また、活動の充実を図るうえで参考となる優良事例の普及・共有を図る機会を広く提供することも検討する必要がある。

図表 2-48 交付金申請や活動に関して支援を受けた組織（複数回答）



図表 2-49 支援を受けたい分野・項目（複数回答）

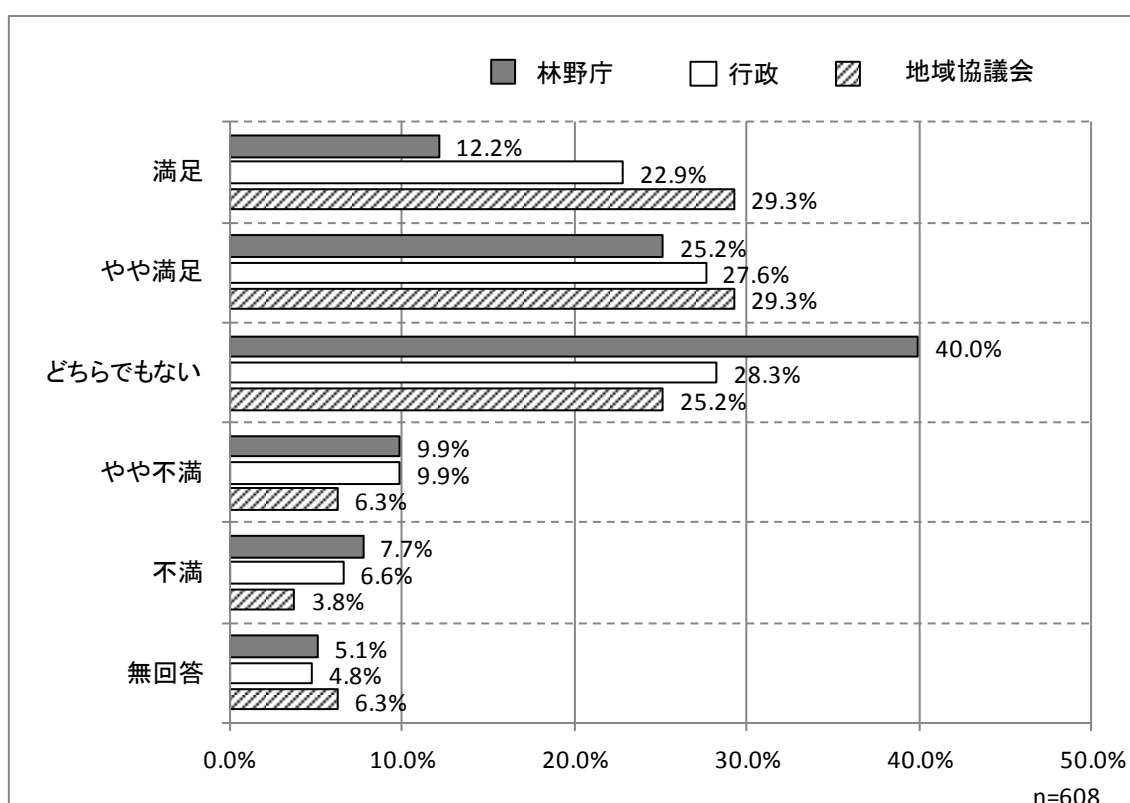


(3) 林野庁・行政・地域協議会による支援の評価

森林・山村多面的機能発揮対策に関する林野庁、行政（都道府県・市町村）、地域協議会の支援内容や支援体制について評価を尋ねた（図表 2-50）。林野庁の支援に対しては「どちらでもない」（40.0%）、行政の支援に対しては「やや満足」（28.3%）、「やや満足」（27.6%）、地域協議会の支援に対しては「満足」（29.3%）、「やや満足」（29.3%）との評価が多くなった。

活動組織と直接接する機会の多い、地域協議会、行政の支援に対しては、肯定的に評価（「満足」、「やや満足」）する団体が5割を超えた。

図表 2-50 林野庁・行政・地域協議会による支援の評価（単数回答）



(4) 本対策の必要性和活動の継続意向

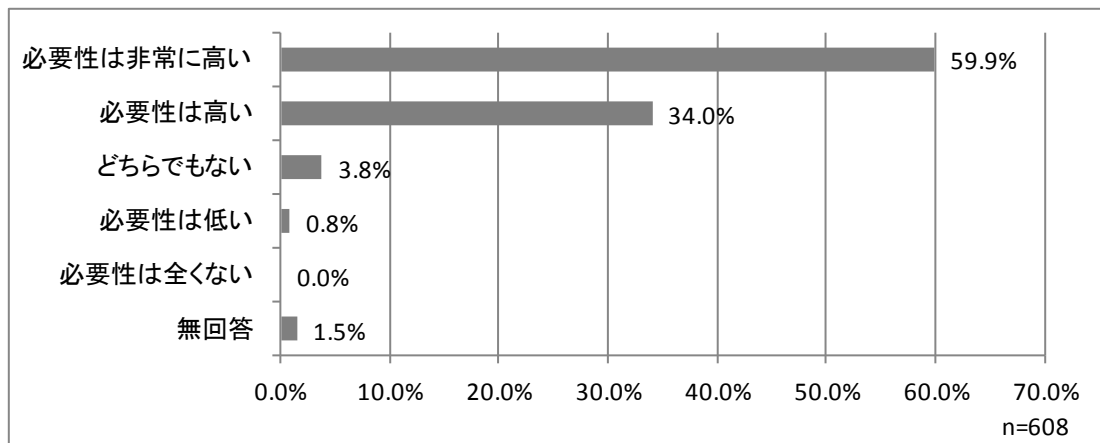
森林づくり・地域活性化を促進するうえで、本対策の必要性を高く評価する団体は極めて多く、「必要性は非常に高い」（59.9%）、「必要性は高い」（34.0%）を合わせた肯定的な回答は93.9%となった（図表 2-51）。

平成 26 年度の活動状況（図表 2-52）は、「当初の計画どおり実施している」（62.0%）が最も多く、「当初の計画を拡大して実施している」（30.9%）が続いた。

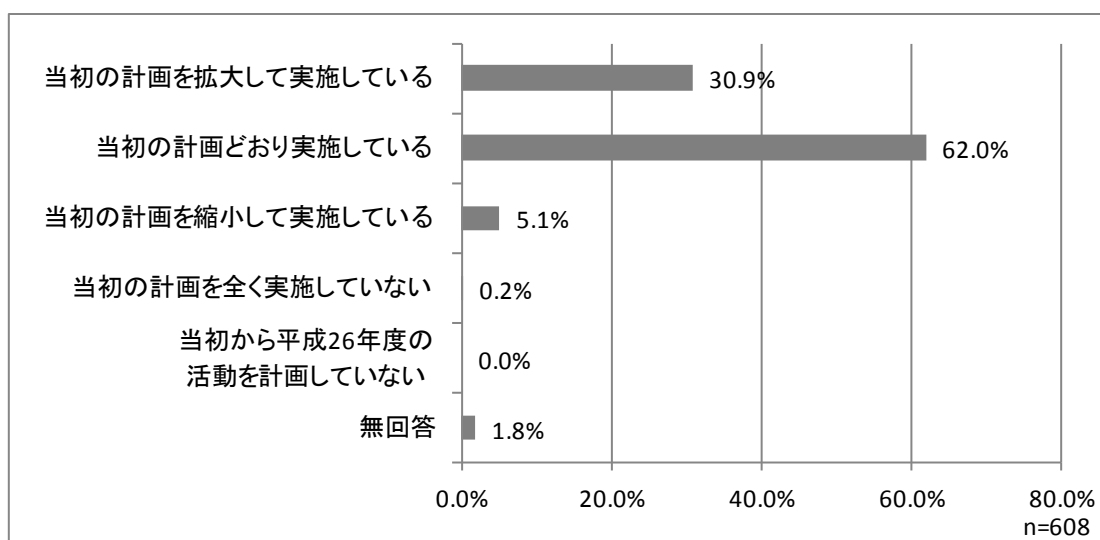
本対策の事業期間終了後の活動（図表 2-53）については、「是非とも継続していきたい」（57.2%）、「できれば継続していきたい」（33.9%）と回答した団体が多く、9割以上の

団体が交付金終了後も活動を継続する意向を持つことが明らかとなった。

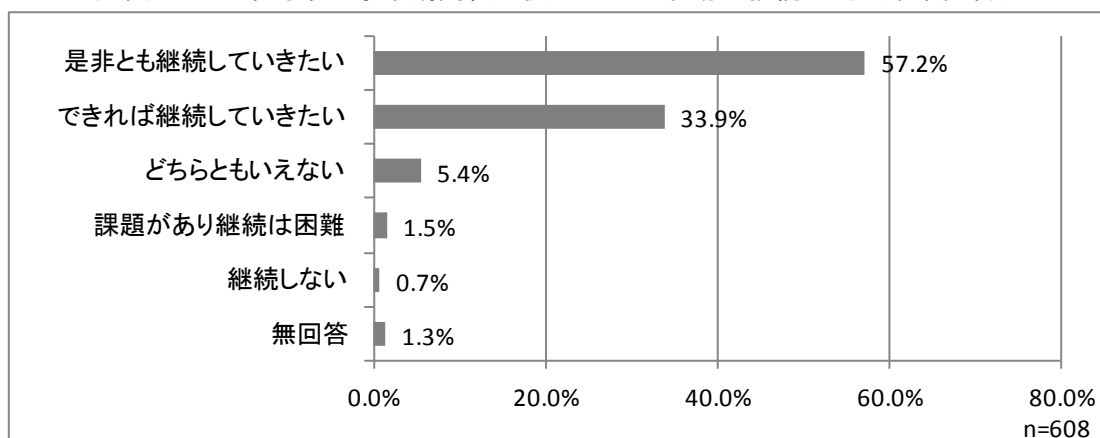
図表 2-51 森林づくり・地域活性化に対する本事業の必要性（単数回答）



図表 2-52 平成 26 年度の活動状況（単数回答）



図表 2-53 本対策の事業期間終了後における活動の継続意向（単数回答）



6.3 今後の活動継続に向けた意見・要望

活動組織が今後の活動に取り組むにあたり、国・地域協議会・行政（都道府県・市町村）に期待する対応と、森林・山村多面的機能発揮対策全般に関する意見・要望を自由記述形式で尋ねた。

寄せられた意見・要望を類型化したところ、国・地域協議会・行政に求められる役割や支援は異なっていることが明らかとなった。今後、本対策の効果的な事業展開を図るためには、国・地域協議会・行政・活動組織といった関係者の役割に応じた対策を検討する必要がある。

(1) 国への意見・要望

「事業の継続・延長」を求める意見が最も多くなり、「事務手続き全般の簡素化」、「交付金の支給単価引き上げ」、「交付金の対象となる活動の見直し」を希望する意見が続いた（図表 2-54）。

国への意見・要望では、本対策の制度設計に関するものが多い特徴があった。また、林業の振興・山林保全の促進といった、林業・森林全般に関する政策について充実を要望する意見もみられた。

図表 2-54 今後の活動に関する国への意見・要望（自由記述）

事業の継続・延長	(105)
交付金の支給単価引き上げ（平米・活動回数あたり）	(24)
資機材購入の補助率・対象（中古品・リース等）の拡大	(17)
人件費・事務費の見直し	(15)
交付金の支給時期の見直し（4月からの支給・年間を通じての支給）	(17)
事務手続き全般の簡素化	(31)
交付金の対象となる活動の見直し	(24)
交付金の対象となる森林の見直し	(15)
年度途中などに制度・運用の変更を行わないこと	(7)
事業の周知・優良事例の紹介	(9)
林業の振興・山林保全の促進を要望	(22)
その他	(37)

(2) 地域協議会への意見・要望

「指導・支援に感謝する意見」が最も多く、活動内容のアドバイスや書類作成等の支援に積極的に取り組んだ地域協議会を評価する意見が目立った（図表 2-55）。一方で、「支援体制・コミュニケーションの充実」を求める意見も多く、アドバイスや支援に不満を

感じている活動組織も一定程度存在している。

特徴的なのは、「他の活動組織との交流機会の提供・優良事例の紹介」が多くなった点であり、地域内の活動組織を取りまとめる地域協議会に対し、他団体との交流機会の提供や優れた取組の紹介を求める団体が多いことが明らかとなった。事業内容や書類作成に関する説明会の実施を求める意見、迅速な交付決定・交付金支給を求める意見も比較的多い。

図表 2-55 今後の活動に関する地域協議会への意見・要望（自由記述）

交付決定・交付金支給の迅速化	(13)
書類全般の簡素化	(9)
事業内容、書類作成等に関する説明会の実施・説明の充実	(15)
情報提供の迅速化・充実	(4)
地域協議会独自の取扱い（人件費・作業水準等）の廃止	(4)
他の活動組織等との交流機会の提供・優良事例の紹介	(26)
支援体制・コミュニケーションの充実	(26)
指導・支援に感謝する意見	(49)
その他	(33)

(3) 行政への意見・要望

「活動組織に対する関与・支援体制の充実」が最も多く、「森林ボランティアの育成・森林への関わり強化」が続いた（図表 2-56）。前述したアンケート結果（図表 2-13 p. 16）から、本対策の存在を知った情報入手先としては都道府県・市町村が大きな役割を果たしたことがうかがえるが、「活動に関与がない」、「活動への関与が薄くなった」との記述が目立っており、行政による活動組織、地域協議会への支援のあり方を検討する必要がある。

図表 2-56 今後の活動に関する行政への意見・要望（自由記述）

活動組織に対する関与・支援体制の充実	(62)
本対策の周知・広報活動への協力	(19)
他の補助金・交付金の創設と活用支援	(24)
森林ボランティアの育成・森林への関わり強化	(40)
森林簿の整備・境界や所有者に関する調査の実施	(9)
指導・支援に感謝する意見	(25)
その他	(25)

(4) 本対策全般に関する意見・要望

本対策全般に関する意見・要望（図表 2-57）では、「事業の継続・延長」を求める意見が最も多くなった。「交付金の対象となる活動の見直し」、「事務手続き全般の簡素化」といった意見も多く、国への意見・要望に近い傾向となった。

本対策の終了を見据え、ボランティア団体の育成などによる森林保全の促進を求める意見も目立った。

図表 2-57 森林・山村多面的機能発揮対策全般に関する意見・要望（自由記述）

事業の継続・延長	(111)
交付金の支給単価引き上げ（平米・活動回数あたり）	(18)
資機材購入の補助率・対象（中古品・リース等）の拡大	(16)
人件費・事務費の見直し	(19)
交付金の支給時期の見直し（4月からの支給・年間を通じての支給）	(6)
事務手続き全般の簡素化	(33)
交付金の対象となる活動の見直し	(39)
交付金の対象となる森林の見直し	(8)
本対策の周知・優良事例の紹介の拡充	(12)
本対策の実施に感謝する意見	(22)
ボランティア団体の育成・森林保全の促進に関する要望	(33)
その他	(29)

7 活動組織アンケート結果のポイント

7.1 活動組織の概況

- ✓ 活動組織の形態、母体となった組織、会員数、規模などはさまざまであり、多様な実施主体による森林整備が本交付金によって進展した。
- ✓ 活動組織が抱える主な課題は資金と担い手の確保。本交付金以外にも活動の原資となる資金を確保すること、外部との交流や情報発信の強化により賛同者を増やしていくことが重要になる。

7.2 交付金を活用した取組の概況

- ✓ 活動タイプは、里山林保全活動が最も多く、森林空間利用タイプ、侵入竹除去・竹林整備活動、森林資源利用タイプの順に続く。全体の6割近い活動組織が複数の活動タイプを組み合わせている。
- ✓ 交付金を活用した目的で最も多いのは、「里山林の荒廃の改善」である。資金・資機材面の充実を図るために本対策に取り組んだ活動組織も多い。
- ✓ 交付金の情報を知ったきっかけは、「都道府県・市町村による情報提供」が主なものとなっているが、ロコミや森林組合からの紹介、雑誌記事など多様である。
- ✓ 対象森林の約半数が本対策によって新たに整備されたものである。対象森林は民有林であるケースが多いが、樹種（広葉樹・針葉樹など）、形態（人工林・天然林など）は多様である。

7.3 活動タイプ別の活動状況

- ✓ 対象森林の面積は、里山林保全活動で大きくなる傾向がある。平均値は5.4ha、中央値は2.2haで侵入竹除去・竹林整備活動、森林資源利用タイプの2倍以上となった。
- ✓ 年間活動回数は、里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動で多くなっている。森林空間利用タイプの活動回数は平均値5.4回、中央値3.0回で上限の12回を大きく下回っている。
- ✓ 1回あたりの平均活動時間は、森林の整備を伴う里山林保全活動、侵入竹除去・竹林整備活動、森林資源利用タイプで長くなっており、1日ばかりで活動を行う団体が多い。森林空間利用タイプでは半日程度の活動を行うケースが多いとみられる。
- ✓ 1回あたりの平均参加人数は、各活動タイプとも平均値7.2～9.7人、中央値5.0人～6.0人と大きな差異はない。森林空間利用タイプのイベント参加者は平均値32.1人、中央値20.0人と多くなっている。
- ✓ 森林資源利用タイプで利用された資源は「薪・炭」、「きのこ」が多い。販売チャンネルを持っていないケースが多く、販路開拓が今後の課題となっている。
- ✓ 森林空間利用タイプで実施されたイベントは「環境教育」、「森林体験」が多い。イベント参加者の居住地、属性はさまざまであり、多様な交流が図られている。

7.4 資機材・施設購入と業務委託の状況

- ✓ 53.5%の団体が交付金を活用して資機材・施設を購入している。資機材・施設の購入にあてた交付金の額は30万円未満となった団体が約7割を占めるが、200万円以上の団体もみられる。資機材・施設の購入にあてた交付金額の平均値は280,093円、中央値は160,000円である。購入した品目は、チェーンソー、刈払い機が多い。
- ✓ 業務を外部委託した団体は29.1%である。外部委託した業務の内容は多岐にわたるが、除間伐や作業道の作設が主なものとなっている。委託先は森林組合が最も多く5割を超えた。

7.5 交付金を活用したことによる効果

- ✓ 活動の対象となった森林面積のうち、活動前に手入れがされていたのは3割強にとどまっており、交付金の活用によって整備が進んだものとみられる。
- ✓ 活動前に森林資源が利用されていた割合は3割に達しておらず、多くの森林で資源利用が進んでいなかった。
- ✓ 交付金の活用によって得られた効果は活動タイプ別に異なっており、活動組織がそれぞれの目的に応じて活動タイプを使い分けたことがうかがえる。森林の多面的機能は多岐にわたるため、それらを強化する活動の支援策にも、さまざまなメニューが求められる。

7.6 森林・山村多面的機能発揮対策に対する評価・要望

- ✓ 交付金申請に関する課題は、活動計画書の作成といった事務手続きと交付金の対象となる活動、経費の要件等の理解が主なものとなっている。
- ✓ 活動に関する課題は、実施状況報告書や金銭出納簿、活動記録、写真整理等の事務手続きが主なものとなっている。
- ✓ 交付金の支給額については約6割が適正な水準であると評価している。また、約5割が十分な水準の人件費を支払うことができたと評価している。
- ✓ 本対策に関する支援としては、「事務手続きに関する丁寧な説明会の実施」、「優良事例の情報提供」、「活動組織づくりの支援」を求める意見が多くなった。ただし、国・地域協議会・行政（都道府県・市町村）に求める支援・対応はそれぞれ異なっており、役割に応じた対策を検討する必要がある。
- ✓ 森林づくり・地域活性化を促進するうえで、本対策の必要性は極めて高く評価されており、肯定的な回答が9割を超えた。本対策の事業期間終了後も活動の継続意向を持つ団体は9割を超えており、地域住民の手による森林保全や森林資源の利活用の機運を高めることに本交付金は大きく寄与している。